

第四回館山市議会定例会会議録（第三号）



一、昭和五十四年十二月十一日（火曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十八名

一番 神田 守隆	二番 石 井 謀
三番 綱 島 憲治	四番 横 溝 功
五番 福 原 勤	七番 古 賀 礼四郎
八番 石 井 昌治	九番 松 下 正己
一〇番 穴 戸 寿夫	一一番 林 豊
一二番 栗 原 一雄	一三番 近 藤 好雄
一四番 渡 辺 昭夫	一五番 伊 藤 幸太郎
一六番 押 元 稔	一七番 黒 川 平治
一八番 流 山 源次郎	一九番 石 井 輝久
二〇番 石 井 武敏	二一番 吉 田 勇治郎
二二番 藤 田 益治	二三番 菊 井 敏博
二四番 和 田 一郎	二五番 五十嵐 昇
二六番 伊 賀 多朗	二七番 石 井 正
二九番 安 西 益男	三〇番 山 口 康

一、欠席議員 一名

二八番 安 沢 徳順

一、出席説明員

第二号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第三号）

昭和五十四年十二月十一日午前十時開議

日程第一

議案第五十一号 新たに生じた土地の確認について  
議案第五十二号 新たに生じた土地を市の区域内に編入することについて

議案第五十三号 新たに生じた土地の確認について

議案第五十四号 新たに生じた土地を市の区域内に編入することについて

議案第五十五号 財産の取得について

議案第五十六号 工事請負契約の締結について

議案第五十七号 館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第五十八号 事務の委託について

議案第五十九号 市営土地改良事業の施行について

議案第六十号 館山市国民宿舍事業の設置等に関する条例の制定について

議案第六十一号 館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第六十二号 市道路線の認定及び廃止について

議案第六十三号 昭和五十四年度館山市一般会計補正予算（第二号）

議案第六十四号 昭和五十四年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第二号）

議案第六十五号 昭和五十四年度館山市水道事業特別会計補正予算（第二号）

日程第三 請願第四号 請願書

開 議 午前十時二分開議

○議長(石井 正君) 本日の出席議員数二十八名、これより第四回市議会定例会第三日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事は、お手もとに配付の日程表により行います。

議 案 の 上 程

○議長(石井 正君) 日程第一、議案第五十一号ないし議案第六十二号の各議案を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

○議長(石井 正君) これより質疑に入ります。

通告がありますので、順次発言を許します。

一番議員神田守隆君。

(一番議員神田守隆君登壇)

○一番(神田守隆君) 一般議案についての質疑を行います。

まず、議案第五十五号財産の取得についてであります。

衛生センターの建設用地の取得についてであります。十三万三千三百四十一平米余を三億七千八百万余円で購入するわけですが、反当たりいたしました二百八十万円余りになるわけですが、あそこ土地については市内でも最も不便な土地の一つであるわけであり、率直に申し上げまして購入価格が高いのではないかという疑念を持つわけであり、この価格の算定根

拠について御説明を願いたい。こういうことであります。

また、予算段階で三億七千万円が計上されていましたが、この予算で三億三千万余の中の対象とした土地は、この十三万三千三百四十一平米余のこの土地についてであるのかどうかということであり、

次に、議案第五十六号工事請負契約の締結についてであります。衛生センターの建設工事の請負契約であります。競争入札が当然だと思われ、ありますが、随意契約によつた理由についてお聞きいたします。

次に、アタカ工業株式会社のこれまでの工事实績についてお伺いをいたします。

三番目に、散布方式から放流方式に変更したとの答弁、昨日あつたわけですが、窒素の除去はどうなのか、除去なしで放流をすれば磯根を荒らすことになるわけですが、そうしたことを含めて地元漁協は了解をしたのかどうか。

さらに、契約金額九億二千万円は当初予算との比較では幾らふえたのか。そしてその理由は何か。これに関連して衛生センターの建設費が三年間の工事ということで繰り延べになり、総額の予算は十四億七百万から十七億八百万と三億百万円余ふえているわけですが、その理由についてお聞きいたします。

次に、散布方式から放流方式に切りかえたということで、散布に充てる土地そのものは不必要になるのではないかと思います。放流方式の場合の必要な土地の面積はどの程度と考えているのか。次に、議案第六十号館山市国民宿舎事業の設置等に関する条例の制定についてであります。

国民宿舍の会計に企業会計の手法を導入するものと理解するわけですが、当然損益計算書では費用に減価償却費まで見込まれるので、黒字経営というのは大変な努力が必要だと思われかけてあります。そこいらの概略がどの程度のものになるのか、示していただきたいと思われかけてあります。五十五年度の損益計算書の大まかな見込みを示していただきたい。収益、費用、損益もお示しください。なお、そのうち償却費は幾らになるのか。

次に、同じ前提のもとで、従来からの特別会計とした場合の歳入歳出はどういうふうになるのか、その点示してください。

次に、議案第六十二号市道路線の認定及び廃止についてであります。

この市道の認定、廃止は果有地を防衛庁に払い下げる、市は防衛庁に対して沖の島に至る通路の往來の自由を認めさせると、こういうことを前提として県との市道の貸借を解消しようというものであるわけですが、この前提をなしている払い下げ地の面積と所在、地番についてまずお聞きいたします。

私は、この問題を考えるとき強い危惧の念を抱かざるを得ないわけであります。館山の航空基地は対潜水艦作戦の重要な基地であるということを知っているわけでありまして。

この払い下げは、基地の拡張、機能の強化ということに結びつく危険はないのかということでありまして。この点での検討はどうなのか、市民の安全にとつて決定的な意味を持つ問題ですから、慎重な対処が必要だと思ひます。この点についての所見をお伺いしたいと思ひます。

さらに、基地の拡張反対ということで昭和三十九年に議会は決

議をしているのですが、これは現在でも当然生きているわけでありまして。決議によりまして、その論拠とされているのは、館山港、鷹の島を中心とした館山港の総合開発、また沖の島地区の国民休暇村建設計画など館山市の発展計画に大きな支障を来すというものでした。いまから十五年前の時点ではありますが、この基地拡張反対の論拠を見るとき、私は自衛隊基地が館山市の発展を阻害してきたことの大きさを改めて感ずるわけでありまして。この決議についての市長の御所見を伺います。

次に、鷹の島から沖の島に至る通路は自衛隊の施設となるわけでありまして、同時に市民の通行は保証されるのだ、こういうことであるわけですが、この問題について質問をいたします。

防衛上の目的があるからこそ土地を取得するのだというふうに思われかけてありますが、そうでなければ財産の取得はそもそもできないと思われかけてあります。こうした防衛上の目的という防衛庁の意思を排除してまで市民の通行は保証されないのではないか、防衛庁の善意への期待の上になつていて、この市民の通行の自由ということはきわめて不安定な前提の上になつていて、ではないかと思われかけてあります。私は市民の基本的な安全の確保という立場から目先のことで判断を誤まるべきではないと思われかけてあります。市民の通行の自由は防衛上の目的に対してどう保証されるのかお聞きしたいと思われかけてあります。

こうした問題を具体的に想定した問題としてお聞きいたします。夏ともないますと、沖の島地区には若者が多く集まるわけでありまして。たとえばの話であります、暴走族のグループこういうようなグループが来ることもあらうかと思ひます。たとえば彼ら同

士のいさかいがこの地区であつたとした場合、公道上であれば警察がこれを取り締まることになるわけですが、あそこは防衛施設内の事件ということになるのではないか。その場合、自衛隊法では「庁舎、営舎その他の防衛庁の施設またはこれらの近傍に火災、その他の災害が発生した場合においては、部隊等の長は部隊等を派遣することができ」としているわけでありますから、自衛隊によつて取り締まりを受ける、こういうような事態が起こるのではないか、もしそういうようなことにでもなれば、沖の島の観光価値というものは大きなダメージを受けることにならないか、ならざるを得ないというふうに思うわけであります。この点についての御所見をお伺いしたいと思うわけであります。

以上であります。答弁によつて再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

第一点が土地が高いのではないかと御質問でございますけれども、あの付近の売買実例がございましてしたので、いわゆる迷惑施設と言われる施設でございまして、千葉県が犬の抑留所及び焼却炉用地として昨年の八月に館山市の山本に約三千二百平米を買いましたので、そうした実例を参考にいたしました。それが平米三千五百十円で買ったわけでございます。距離は離れておりますけれども、いずれも同じように山の奥というほどのことでもございせんが、市街地から遠いところでございまして、状況が似ているところだろうというように考え方から、この価額を参考にいたしましたして単価を算出したわけでございます。

なお、アタカ工業という会社の工事実績でございますが、昭和

四十二年度から昭和五十四年現在に至るまでに完成した工事実績は、消化方式建設が十二、増改設が四十二。酸化方式建設が八、増改築十七でございます。さらにⅠⅡ方式としては尿処理施設として稼働中のもの四、下水処理場投入し尿一次処理施設でございますが、さらに起工式終了のもの二、契約済み二となつております。

随意契約をいたしました理由は、従来から御説明を申し上げておりますとおり、館山市が水がないという、水源が不足しているという実態にかんがみまして、低希釈による新処理技術を導入したい。四社の中から検討いたしました。当社の施設が最も、無希釈のこの施設が最も適当であるということで、この会社と契約を結ぶことにいたしました。したがって随意契約になつたわけでございます。

当初の予算が大体十四億、今回補正をいたしまして十七億というところでございますが、の中には真倉の方面から入ります進入道路の土地買収、工事造成費及びその設計費等の経費が追加になつたわけでございます。

散布方式から放流方式に変えましたことは、この計画をいたします段階では地元漁業組合の放流先の漁業会の同意が得られる見込みがございせんので、一応散布方式ということで話を進めまして、その後漁業会の同意が得られるようになりましたので、放流方式に変更いたしましたわけでございます。

放流方式を採用いたしました場合に必要といたします面積は約二万平米と記憶いたしておりますが、もし不正確でございましたら、間違つておりましたら、あとで訂正をいたします。

2 の 外

窒素除去の關係でございますが、I・Zシステムによる処理方式窒素除去の關係につきましては、青森県の西北五の処理施設にいたしましたも、特に脱窒工程が組み込まれているわけではなく、I・Z反応槽内にし尿を間欠投入することによりまして槽内の溶存酸素が増減をいたしまして、そのために硝化菌及び脱窒素菌が交互に作用いたしまして、生物学的脱窒が行われているわけであり  
ます。

当市といたしましては、当初さらに万全を期する意味で脱窒工程を組み込んだわけでございますが、県との協議の過程においてI・Z反応槽内で十分脱窒効果が期待できるので、その必要がないということでございますして、県の御指導によりましてその工程を省いたわけでございます。

そういうことでございますので、十分脱窒の効果が期待されますので、磯根を荒らすようなことは絶対にございませんし、またそうした実情をよく地元の漁業会にお話を申し上げまして、漁業会との了解を得たわけでございます。

次に、鳩山荘の關係でございますが、国民宿舎鳩山荘が本年度中に竣工する見込みでございますが、本議会におきまして条例改正をお願いいたしまして、昭和五十五年四月一日より地方公営企業法の一部を適用し、企業会計で実施しようとするものでございます。

昭和五十五年度の予算見込みでございますけれども、歳入歳出それぞれ一億六千七百万円程度を見込んでおりますが、歳入の内訳について申し上げますと、宿泊定員が百四十一名でございますので、宿泊人員二万九千人程度を見込んでおります。なお、その

他特別室バス、トイレ付宿泊料五〇％、トイレ付二〇％が加算される見込みでございます。

歳出の内訳ですが、人件費、食事材料費等のほか企業債利息二千七百万程度、減価償却費一千九百万程度を見込んでいますわけ  
でございます。

なお、国民宿舎利用料基準及びその取り扱いについて申し上げますと、木造の場合は一泊二食付三千三百円でございますが、鉄筋コンクリート建ての場合、一泊二食付三千四百円に変更になりますので、これは来年の三月議会で料金変更の条例改正をお願いする予定でございます。

議案第六十二号の関連につきまして、この土地は館山市富士見字七号地千六十八の一でございます。面積は七万九千九百三十六平米でございます。

これが基地の拡張につながるのではないか、あるいは三十九年に反対決議をした理由がいまでも生きているのではないか、そしてこれが市民の今後あすこを通る、その交通の保証がなされないのではないか、また観光客等が行動が制限されるのではないかと  
いう、そういう質問でございますが、そういう心配はなからうか  
と思います。

三十九年に市議会におきまして反対決議がございましたけれども、四十一年にすでに市当局と防衛施設局長との間で協定ができて  
いるものでございます。それを今回さらに再確認をいたしまして、その内容について微調整を加えた。そういうわけでござい  
ます。

すべて約束事というのは、それが契約であろうと、覚書であり

ましようとも、そういう名前をとりましようとも、相互の信頼がなければできないこととございますので、相手が国でございますので、私もその契約を国が完全に履行してくれることを信じているわけでございます。そういう意味で、問題はないというふうに考えます。

以上、答弁を終わります。

○一番(神田守隆君) 五十五号のことについてですが、財産の取得問題、昨年に平米当たり三千五百五十円の取引実例があると、こういうことでありますが、確かに、そうすると大体今度の取引の趣旨も理解をできるわけでありますけれども、不動産の鑑定士の鑑定というものはされなかつたのかどうか、その点についてお聞きをしたいわけでございます。

それで、先ほど答弁漏れであろうと思えますけれども、予算段階で三億七千万を計上したその対象の土地、これがこの土地であるかどうか、この点です。

それから、取引の実例がないというお話でございましたけれども、谷藤原の運動公園ですか、裏にありますけれども、あの土地の購入についてはそうした実例としてあるのではないかと、きわめて近い土地としてあるのではないかと思いますが、この点についての検討はされているのかどうか。この点について再質問をしたいと思えます。

おつて、五十六号以下は。

○民生部長(鈴木 力君) 用地買収にあたりましての不動産の鑑定評価でございますが、これにつきましては昭和五十二年度に不動産鑑定というところで一応周辺の上真倉字小池作周辺につきまし

て行われておる事例がございます。

それからなお、今回お願いいたしました用地購入費三億七千万に對しまして、対象とした土地はどれかということとでございます。面積につきましては当初約十二万三千平米を予定したわけでございます。これに對する購入予算といたしまして三億七千万程度を予定いたしましたわけでございます。その後いろいろ買収交渉を努めていく中で変わつてきたわけでございますけれども、面積におきましては現段階におきましては十三万三千三百四十一平米に面積が増加しております。これに對する価格が三億七千八百七万五千五百円このように額が変動しております。

運動公園につきましては、ただいま調査いたしましたのでちほどお答えいたします。

○一番(神田守隆君) この鑑定士の鑑定価格というのは幾らだったのか、これについて御答弁願います。

○民生部長(鈴木 力君) 当時、いわゆる五十二年当時でございますけれども、山林でございますけれども、平米当たり三千円ないし三千三百円。

○一番(神田守隆君) 五十五号の議案については以上で打ち切りまして、五十六号の議案に入りたいと思えます。

この五十六号の議案ですけれども、るる答弁があつたわけでありますけれども、県の指導もあり、脱望業についてもかなりの効果が期待できると、こういうようなことでそういうことも含めて磯根も荒らすことにならないということで地元漁協の了解が得られたと、こういうふうに先ほどの答弁を理解したい。そういうことで確認をしたいと思えます。



今後の問題として、そうは言っても現実問題として稼働した時点で何らかの問題が出てくる可能性も十分あるかと思えます。そういう点では、公害の除去ということで引き続き十分な配慮をいただきたいということがあります。このことで一応この問題は、次にいきたいと思えます。

土地の面積の問題で、十三万三千平米余を購入する。さらに搬入路として追加の購入予定もある。ところが、散布方式から放流方式に切りかえたことで必要になる面積は二万平米だ、記憶の間違ひもあるかもしれませんがともかくということでありましたけれども、この開きは相当あるものだということであらうと考えざるを得ないわけでありすけれども、どうしてこういうようなことを、そうすると相当不要となる土地がでてるだろうと思つてわけですがこのことについてどういうような対処を、どういうような活用なり、対策を考えておられるのか、その点についてお聞きしたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） この用地につきましては都市計画の關係もござりますが、いわゆる処理施設の用地のみならず、周辺のいわゆる環境保全ということにつきまして十分な配慮をいたす。こういうことで地元との話し合いの段階におきまして約束してあるわけでありまして、また従来のイメージダウンということがないようなことから花木の植栽とか、あるいは苑地化というようにことにつきまして十分な配慮をいたすということから、用地につきましては相当の余裕のある用地を買つて配慮を図る。こういうことでございます。

○一審（神田守隆君） いまのお話では植栽をしたり、あるいは苑

地化を図つたりして、従来の衛生センタ一のイメージこれを違つたものにしていくんだ。そのためにこの敷地についても考えていくんだ。これは別に散布方式のものであつても、そういうふうに考えられていたわけではないかと思つてありますが、このことについては大きく土地の取得の問題としては、大きく当初の計画が変わつたということと当初の見込みの上でやはり問題があつたのではないかとこのことを指摘したいと思えます。

次に、六十二号に移りますけれども、市道の認定及び廃止についてであります。私は率直に申しまして非常に危惧の念を抱くんだ、こういうことで市長の所見を伺つたわけでありすけれども、心配はないと、こういうような答弁で非常に信じていると、契約は信賴の上に成り立つ、これはもう当然のことと、そういうことで私の質問への回答ということにはならないだろうと思つてけなす。

具体的に問題を出しているわけですが、市民の通行の問題、通行権、通行の自由というような問題あるいは先ほど出したような事件があつた場合どういうような関係になるのか、やはり防衛施設として当然自衛隊法の対象地域ということになるのではないかとこのように思つてありますけれども、これは先ほどの市長さんの答弁の中では心配はない、信じているということではちよつと理解のできないことなので、再度質問をいたしたいと思えます。

○市長（半澤良一君） 土地を、防衛庁が現在の県有地を買収しても市民の通行するための必要な用地を十分確保するという約束でございますので、その点は土地の所有権は防衛庁にありまして

も、一般に開放するという約束でございますので、その約束を破るということはない。やはり相互の信頼の上に基づいて契約を、協定を締結した。そういうふうに考えております。

いろいろ問題が起こった場合に自衛隊法の適用があるんじゃないかということでございますが、一般に開放された土地でございますから、これは自衛隊法が適用にならない。一般の警察権が及ぶんだというふうに理解しております。

○一番(神田守隆君) 市長さんのお話では心配はないんだ、警察権の行使という点でも自衛隊法の適用はないんだ。こういうようなお話であるわけですけども、どうもそこらへんについては市長の考え方ということで、現実的には自衛隊法によつて自衛隊の施設になるんじゃないかというふうに思うわけであります。

その点では、市長さんそういうふうに言われますけれども、現実にはそういうふうに自衛隊法に規定をされている、そういう中では信じているということだけではそういう具体的な問題として起きた場合に、非常に大きな館山の観光へのダメージというものが私は引き起こされかねないというふうに心配をするものであります。

したがいまして、この市道の認定及び廃止の問題についてはさらに慎重な審議が必要だし、議会での審議が必要であるというふうに思うわけなんですけれども、さらにこの問題についての審議のために市道の認定及び廃止について私は取り下げをしていただきたい。そういうことで十分この問題についての審議をしていきたいというふうに考えるわけですけども、市長さんのお考えをお聞かせ願います。

○市長(半澤良一君) 神田議員の御心配になることは絶対ないと確信をいたしておりますので、この際この議案を取り下げるということは考えてはおりません。

○一番(神田守隆君) 市長さんのそういう答弁でありますけれども、私としては依然として納得ができないわけであります。一応この問題私の方としてはどうしても納得できないということで質問を一応打ち切ります。

○議長(石井 正君) 以上で、一番議員の質問を終わります。

次、二九番議員安西益男君。

(二九番議員安西益男君登壇)

○二九番(安西益男君) 議案第五十六号工事請負契約について御質問いたします。

この件はアタカ工業株式会社とし尿処理施設の工事の請負について契約を締結しようとするものでありますが、当初説明を受けました時点とではだいぶ計画に変更があるようでございます。すなわち当初の説明ですと、散布方式を取り入れるので放流はしないということでありました。そのために敷地も広く必要であるということでありました。しかし現在聞くところによりますれば、散布方式をあきらめて放流するという方針で進めておるといふことでございます。散布をしないとすれば、敷地は十分の一以下で済むわけでございます。

そこで、お伺いいたしますが、放流することに決めたのは一体どういう理由からでございますでしょうか。これは先ほど説明がありました。漁業会の同意を得たということでございますが、散布方式がよいとするならば、あえて放流する必要はないと思うわけ

でございますが、非常にここにまた経費もかかるわけでござい  
すので、なぜそのように経費をかけてかつまた放流方式にしなけ  
ればならなかつたのかということに若干の理解できない面がある  
わけでございます。放流するということにすれば予算面にもか  
りの影響があり、また放流先の住民の方々への条件等も当然考  
えなければならぬ。そういう結果になろうかと思ひます。

また、低希釈方式を取り入れるので原水は要らないというよ  
うなことでもございました。現在予定敷地内で取水のためのボーリ  
ング作業が進められておると思いますが、それらの経過については  
全く説明を聞かされておられません。これはなぜそのような経過に  
ついての説明がなされなかつたのか、その点をお伺ひいたしたい  
と思ひます。

なおまた、当初私どもが五所川原市の施設を視察した時点では  
処理水をスプリングラーで散布しておりまして、これは開設も間  
もない時期でありまして、育々とした芝生が現在では枯れてしま  
い、その後間もなく全滅してしまつたということでもあります。そ  
して数回にわたり芝生の種をまいてみたが、芽が出てこないとい  
うことであります。五所川原では散布した敷地が水たまりとなつ  
ておつたので圧死したと説明しておりますが、この状況を御当局  
はご存じでございましょうか。

また、茂原市は今日六日にアタカの施設で工事の起工式を行つ  
たんですが、放流先の処置が決定をみていまま着手し、河川  
への放流に対し川下の二部落が強い反対を示しており、パイプ  
ラインで海に放流するとなれば十数億かかるということでもござい  
ます。そしてその成り行きが注目されております。

現在までにI.Z方式で完成した自治体すなわち館山市程度のも  
のがあればお教え願ひたい。

ご存じのように、現在アタカ工業は、アタカ産業は倒産して五  
十三年一月二十日以降日立造船の系列化に入り、元日産建設副社  
長であつた数田美正氏が社長に就任し発足したと伺つております。  
したがつて、この業界での経験はきわめて短いのであります。販  
売状況については官公庁関係が三五％から四〇％、民間企業が六  
〇％をいし六五％、民間関係が多いので資金の回収に問題はない  
かどうか。五十三年八月十五日時点、これは大日本商事というか  
なりの企業でございしますが、これについて回収不能ということも  
聞いております。そのように他にもあるというふうに聞いており  
ますが、そのような状況等はご存じなさつていらっしゃるかどうか。

また、売り込みにかなり憂慮している模様でございまして、経  
費をかけているわりには利益はどうか。五十三年、五十四年にお  
ける赤字経営の実情はご存じか。取引銀行等の信用度、仕入先の  
意見はどうであるか。業界での風評、経営診断の格づけ等々経営  
の裏づけについてお尋ねしたいと思ひます。

鴨川市では栗田、久保田、アタカの三社の見積り、設計書、資  
料を検討の結果、最終的には久保田鉄工に決定したと聞いており  
ます。いまはどの一流メーカーでも希釈水は五％というのが常識  
であり、館山市でも取水して放流することになれば、一流  
メーカーの見積り、設計、資料等十分に検討する必要があると思  
ひますが、この点どのように考えられますか。

さらに細部については再質問でお尋ねしたいと思ひます。  
以上でございします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 安西議員の御質問にお答えをいたします。

散布の方向で進んでいたものがどうして放流することになったかという御質問でございますが、私も初めから散布が最適だというふうには考えていたわけではございませんで、放流することの方がよりベターだと考えていたわけです。しかし地元漁業会の了解が得られる見通しがなかなかありませんでした。もちろん努力はしてまいりましたけれども、得られる見通しがございませんので、その場合には散布の方式がとれるじやないかということで散布方式を検討してまいりましたわけでございますが、散布方式の方が脱塩装置をつけなければいけませんし、また脱塩装置を動かすためのランニングコストがかかるわけでございますので、むしろわれわれとしては放流することを期待していたわけでございます。その後県の指導等もございまして、散布にするための余分な金をかけるよりも、それだけ努力をして漁業会と折衝するようにというような県の指導もございまして、さらに折衝をいたしましてようやく本年の五月・六月にかけて地元漁業会の承認を得ることになったわけでございます。そういうことで放流にする方が将来にわたっていいという結論で放流方式に決めただけでございます。

現在、ボーリングいたしておりますけれども、それは場内の清掃あるいは清掃車の清掃等の雑排水の、あるいは飲料水の確保、それから職員をふろにいろいろする水の確保、そういう意味の水を確保するためのボーリングでございまして、希釈水として使うものではございません。

五所川原におきまして散布したために芝が枯れてというお話でございましたが、その結果については聞いてはおりませんけれども、あるいはそういうことがあり得るのではないかと考えますのは、私も見学に行きましたときに、なんか脱塩装置を使わないでそのまま散布しておつたということを言っておりまして、あるいはそういうおそれがあったかもしれませんが、現実については聞いておりません。

さらに、新処理技術が非常に進んできてどこでも五倍になってるんだ、五倍の希釈水で済んでいるんだ、だからこの際もう一度検討する必要があるんじゃないかということでございましたけれども、E2の場合には一応厚生省への申請は二・五倍の希釈ということになっておりますけれども、現実には全然水を使わないわけでございますので、やはり依然として現在の技術段階、各社の開発の状況を見ましても、館山市の場合には絶対に水を使わないというこのE2方式が一番適しているのではないかと、いまでも確信をいたしております。

それから、会社の経営内容の問題でございすけれども、ただいま大変詳しい御説明をいただきましたけれども、確かに本年の六月決算では赤字ということでございましたけれども、この会社が日立造船の傘下に入りまして、今回の仮契約の工事完成保証人も日立造船でございすので、そういう意味でも会社の内容についてもいろいろ問題の御指摘がありましたけれども、それは一時的のものであらうと、やはりいろいろの状況を判断いたしますと現在復調をしているというふうにも考えられますし、証券会社関係の情報をとつてみましても、決してそうあぶない会社ではない

というニュース、これはブライベートでございますけれども、聞いております。先ほど申し上げました日立造船が保証人になっておりますので、工事の完成については不安はないものと確信をいたしております。

すでに工名方式を採用して、そうして完成し、それが運転している自治体があるかという御質問でございますけれども、これにつきましては正確なことがわかりませんので、のちほど御答弁申し上げます。

以上、答弁を終わります。

○二九番（安西益男君）　ただいま市長さんの御説明ですと、放流は当初からというふうなお話のようでございますが、大半散布が主体だというふうに受け取っておることは、これは事実でございます。ですから途中から変わったという理解の仕方、これはいままでの私たちの考えというふうに思いますが、いろいろと果の指導等によつて放流にしたいんだということですが、果の保証ですね、これは放流式でないと保証がつかないのか、あるいはまた散布方式でもつくのか。その点を一つお聞かせいただきたい。それが一点でございます。

それから、経過について全くごく最近聞いたわけでございますので、もつとこういつたことも御説明いただきたいということでございます。

五所川原の芝生が枯れたということは、これは間違はなく私に関係者から確認しておりますので、その理由が処理水が水質が悪かつたかどうかということについては、これは判然としません。五所川原の係の言うには水がたまつちやつたので圧死したのだと

いうふうな説明をしておりますけれども、その真偽は私たちにばかりはわかりませんけれども、現状はそういうことです。五所川原としては省エネ対策として農地還元もしたいというふうなことも言っておりますが。

それと、これは常識的に考えて販売先が大体民間が大半、六〇％ないし六五％これはどうしても官公庁のそういうものと違つて回収がスムーズにいくかどうかということが非常に心配されるんではないか。

取引銀行としては協和大阪、住友信託、住友本店、三菱大阪というようなことがありますがけれども、そういうところの信用度これはなかなかむずかしい問題でありますけれども、それぞれ掌握はしておりますけれども、決していい状況ではないということだけは確かめてあります。したがつて融資の余力についてはどうか、限度額についてはいいじゃないか。あるいは担保余力があるのかどうか、ないんではないかというふうな判断等々、元受け銀行の残高こういうものもありますし、業界での格づけ、全国的にどこにランクされているか。業界の一流、二流、三流とありますが、どここの部分にランクされているか。こういつたこともお調べになつていかどうか。総合して百点とすれば何点ぐらいになるか。仕入れ状況そういう点等もお調べになつていか。でないと、会社のそういうつた銀行なり、業績なりそういうつたものが掌握してないと信頼できるかどうか。ただ心配ないというだけのことでは確固たる証拠がない。これはアタカさんのお話かどうかわかりませんが、それだけでは心配な面もあるわけです。

鴨川等で、先ほど申し上げましたように鴨川市の資料でござい

ますけれども、いろんな面から検討した。さらに見積り等から久保田に決まったということは額の面もわかり。なおかつ鴨川のデーターによりますと、長期滞留債権三十億の処理が課題となつてゐる。こういう情報も鴨川としては出てゐる。

ですから、決して心配ないという状況の、詳しいこれ以上のことは大変専門的に調べたものがありますけれども、ちよつとあまり言えない、そういうものがあるわけです。大変心配の点の、ですから先ほど申し上げましたように非常に経験が足りない、技術陣がどうなつてゐるか、あるいはまた今後施設施行にあたつてゐるんな支障が出てこないかという心配も多分にあるわけなんです。

なおまた、でき上つた時点の今後の将来性について、たとえば久保田あたりは三百何十カ所かやつてゐるといふ実績がある。アタカの場合には経験が短いし、自治体としてやつてゐる個所というのは私たちまだ聞いておりません。工事に入つたというところは聞いておりますが、でき上つた個所その結果については全く聞いておりません。そういう点についてはお調べのようでございますから、ぜひお知らせをいただきたいわけですが、なおかつ茂原においても大変こういう問題になつたというようないきなり工式をやつたわけですけれども、館山はいいあんばいに放流先については地元住民の協力 同意を得たということでございますが、これは何度も繰り返して言うようですが、当初の説明ですと、アタカの無希釈水の方式だと、施設にしても、何にしても経費が安いということで出発したわけでございますので、あえて放流に切りかえる必要はないと、どうしてもそこが理解できない。ただアタカの場合には、今後の経費、維持費については五所川原でも言つており

ましたけれども、高くつくとやつておりましたけれども、大差なような、各一流メーカーの日進月歩ですから、どんどん低希釈が開発されております。そういう点では経験豊富な一流メーカーが非常に無難であるということが言えると思ひます。でないと、あとで問題が起きた場合に、これはなければ結構でございますが、あつた場合には大変困るんではないかということが言われまして、そこで他市の状況とか、経営については専門的なあれがありますけれども、あまり極端な言い方になりますので言いませんけれども、決していい状況ということは言えないということで、十分こういう点をもう一べん安心した上で取りかかつていかなければどうかというふうに思ひます。

先ほどお尋ねしました県の指導は散布でも保証額がつくのかどうか、そういう点ですね。それからもう一べんアタカの経営状況について、どうでしょう。

○市長（半澤良一君） 散布方式では補助金が出ないのかという御質問でございますけれども、これは出ないということはないと思ひます。ただ法律的には散布方式では出さないという根拠はないわけでございますけれども、ただ県とすると、そのために余分な設備をかけるんだから、むだな投資だからやめて放流に切りかえなさいという指導でございますので、そういう意味で、その県の了解が得られなければ現実的には補助金が出ないということになろうかと思ひます。

それから、アタカの会社の内容の件でございますけれども、確かにいろいろ大億の赤字を出したというような事実もございませうけれども、現実には復調しているという情報もございませう。

官需が少ないというお話でございましたが、当方で調べましたところが北海道とか、和歌山とか、大阪とか、兵庫とか、あるいは日本住宅公団とか、青森、静岡等ていろいろの工事をやつておりまして、現在の官需の受注残が百五十億程度あるようになっております。相当の仕事はしているんだらう、し尿処理、水処理としては相当の仕事をしているんだというふうに理解をいたしております。

それから、アタカが大変経験が少ないんじゃないかというお話がございましたが、確かに高圧メーカーでございましたので、経験は少ないということは言えるかもしれませんが、他社の場合でもそうでございますけれども、新処理技術になつてからは他の会社もそう深い経験があるわけではありませんので、新処理技術という点から言えばみんな同じスタートラインに立つたもののだというふうに考えております。

○二九番（安西益男君） いろいろ御説明ありましたが、新処理施設は大差ないということですが、私もそういうふうに理解するわけですが、そういう面から大差ない時点にきているわけです。東京都あたりでも、五％以上は東京都全域にわたつて採用しないということで、自治体からそういう状況にありますから、そういうふうで大差ない施設になつてきてある。一流メーカーも開発されているということでございますから、特別に水が要らないという、散布だということで当初から印象つけて、途中から変わつてきたんじゃないかという、非常に私がそう思つていたのか当局は当初から放水に考えておつたということのようでございしますが、さつき一番議員が質問されたように、当初は敷地はアタカ

の場合ですと、この施設としては六千八百平米あればいいんだというところで大変余つちやつた土地があるわけです。不要な土地が現在になれば。これは膨大な、大変な土地をどのようにお使いになるかわかりませんけれども、非常にそういう土地について今後どのように対処されて行かれますか。この土地利用については簡単にいかないというふうに思われますけれども、確かに広い土地でございます。十分の一以下で済む土地が、それだけの膨大な土地を確保しなければいけなかつたということは、現在どのように思つていらつしやるのか。その点等もお聞かせいただきたいと思うわけでございます。

○市長（半澤良一君） 神田議員にお答えいたしましたように、施設の敷地そのものとしては二万二千平米程度あればいいわけでございますが、やはりそれだけではなかなか、いわゆる迷惑施設を設置します場合に地元の承諾はなかなか得られないわけで、やはり各地どここの処理場を見ましても、その施設の周辺も環境整備していくというふうな必要があるわけでございます。そういう意味からも、そう大きな過ぎる土地であるというふうにも考えないわけでございます。もつとも、この土地交渉の段階でいろいろの経過もございましたけれども、結論的にこれだけのものを買うことになつたわけでございますが、しかしいま申し上げましたようにある面ではやむを得なかつた面もありますけれども、しかし今後これを活用して環境整備を図つていきたいというふうに考えております。

○二九番（安西益男君） あらかじめ突込んだ御質問ができない、資料はありますけれども、ちよつとできないわけですが、経営診

断の格づけの見方として、たとえば営業状況、収入状況、経営活動点数があります。何点何点とあります。また格づけについては警戒を要しないが百とするならば、二番目として差しあたり警戒を要しない。三番目は多少注意を要するとか、四番目は一応警戒を要するとか、五番目警戒を要するとかいうふうにランクがあるんですけれども、決してこの中で専門的な見方をしますと、いいということではないということであります。

そういつたことで、いま一べんひとつ御検討すべきではないかということをお望み申し上げておきたいと思ひます。

私の質問はこれで終ります。

○議長（石井 正君） 以上で、二九番議員の質問を終わります。

次、一九番議員石井輝久君。

（一九番議員石井輝久君登壇）

○一九番（石井輝久君） 私は昨日の行政一般質問に続きまして、本日の議案審議にあたりまして再び通告申し上げました点につきまして質問いたしますが、とりあえずここで問わんとするものは衛生センターに関連しての諸問題に限っておくことといたします。それは昨日も簡単に触れましたとおり、先行きに不安を持たざるを得ないためでありますことをまず申し上げておいて質問に入ります。

質問の第一点は、議案五十五号財産取得についてであります。取得しようとする面積は十三万三千三百四十一平米、その金額は三億七千八百七十五千五百円、単価が高いとか、安いとかにつきましては申し上げるつもりはございません。昨日も質問で触れましたし、御答弁もいただいたのでありますが、この取得しようとする面積は従来からたび重なる変更をみておりますことは昨日も指摘したとおりであります。

昨日の御答弁によりますと、当初取得しようとする計画面積は十二万二千四百平米ということでありましたが、この面積は初めて聞く面積であります。私は昨日も具体的に数字を挙げて聞いております。昭和五十三年十二月十八日の通告質問でお答えいただきました面積が十一万五千平方メートルでございまして、続いて去る三月七日にはこの議場で取得しようとする面積は十二万三千平方メートルである旨の御答弁をいただいております。そうして

ただいま議案として提案されております面積があるわけでございします。これで三つの数字があるのでありますが、昨日の御答弁で十二万二千四百平方メートルという新たな数字が出てまいりますと、いささかとまどいを感じざるを得ないのでございます。まずこの点を明白にしたいでございます。

私どもは議場で質問する場合、それ相応に真剣に研究を重ねているつもりであります。それにもかかわらず説明がその都度変わつてしまふのではどうにもならないのであります。議会で答弁にはかけひきも場合によつてはあろうかとも思ひますが、数字がくるくると変わつてしまつては真剣な質疑が行われないのであります。以上、指摘しておきまして次の質問に移ります。

次は、衛生センターの施設の必要面積についてであります。ただいまもこれに関連いたしましたは安西議員の質疑もございましたが、いずれにいたしましても、去る三月十二日にこの議場で必要面積は一万五千ないし二万平方メートルとお答えいただいたのでありますが、さきにアタカ工業株式会社さんが御説明くださった



ときに、私の問いに對しまして六千八百平方メートルあれば施設ができると申されております。当局側はたゞいまも二万平方メートル、アタカさんは六千八百平方メートルあれば施設ができると申しております。一体どちらが本当なのか、ここではつきり面積をお示しいただきたいと存じます。施設に必要な面積でございます。

続きまして、用地購入費三億七千八百七十五万五千五百円として提案されておりますが、先ほども申し上げましたとおり、この価格が高いとか、安いとかは別問題でございますして、質問はいたしませんか、質問しようとする点は、議案第六十三号の昭和五十四年度館山市一般会計補正予算第二号中五ページの第二表継続費補正との関連であります。

これを要するに、衛生センターを大ざつぱに言いますと、十四億円で建設しようとしたわけでございます。それが御説明によりますと、国の補助金がうまくいかないためにやむを得ず二カ年計画を三カ年計画に変更せざるを得なくなつた。こういうことでございます。

実は、これだけでも大変な計画変更でございます。二カ年でできるといふのを三カ年に延ばす。この計画変更でも大変な計画変更でございます。それだけでも大変なことですが、ここにもう一つ重大と思われることがございます。

この第二表は、昭和五十四年度六億四千四百四十万円の計画で私どもは議決をいたしておるわけでございます。そしてここで改めて二カ年計画を三カ年計画に変更しようとするために、今年度は五億九千二百十五万六千円に減額いたしますという御提案でこ

さいます。しかしこの計画変更によつて先ほど申し上げましたように、大ざつぱに十四億が一挙に三億円上つて十七億円になつてしまふんです。そういうことをこの第二表は物語つておるわけです。二カ年計画で十四億、三カ年計画になると一挙に三億もはね上つてしまつて十七億、これは一体どういふことでございましょうか、御説明を承りたいのでございます。

次は、第五十六号工事請負契約についてであります。

衛生センターを隨意契約によつてアタカ工業株式会社東京支店に九億二千万円で請け負わせようとする議案であります。聞くところによりますと、市はすでに仮契約を結ばれたように承つております。これは事実かどうかお答えをいたしたいと存じます。

いりまでもなく、市の条例中議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例というのがございます。これに基づいていま請負契約を、財産取得もそうでございますが、この条例に基づいて提案をされておられる。ところが、この条例を見ますと、仮契約事項なんていうのは一項もございません。仮契約を結んだのが事実とするならば、どんな根拠で仮契約を結ばれたのか。お答えをいたしたいと存じます。

また同時に、きょうここで議会の提案をされている。半年前に仮契約した、三月前に仮契約したというならともかく、仮契約が事実とするならば提案をなぜ待てなかつたのか、仮契約が事実だつたら御説明を承りたいと存じます。

また、合わせまして仮契約の内容の概要をお示しいただきたいと存じます。

続きまして、アタカ工業株式会社の経営内容等従来の説明との相違についてであります。これにつきましては、昨日も市長は私の不安に対して不安はないと断言をされております。ただいま安西議員との質疑でも大丈夫だという御答弁がございましたので、市長の答弁は答弁としてそれはよろしゅうございますが、とにかく先ほどの安西議員との質疑を通じても明らかになっておりますように、あまりにも不安材料が多いし、その不安があるがゆえにお隣の鴨川市では指名をしなかつたという経過がございます。場内散布するから十二万ないし十三万平方メートルのものを面積が必要なんだという従来の説明が放流になつた。これはもう説明で何回となく場内散布でいくんですよ、場内散布では県が認めませんよ、県の指導は放流ですよと私は何回も指摘しております。

ところが、事情はございます。関係住民の同意が得られない。まことにやむを得ざる事由があつたにしても、当時の経過としては市は放流を断念しながら場内散布でいくという事由のもとに、あれだけの広大な面積が必要だ。なるほどな、そうだなということであつたことは経過として事実でございます。

それがいま、場内散布を全く考えなくなつた。放流一本でいくそれはそれとして結構でございますけれども、そうなりますと全くあの広大な面積が必要か必要でないかという面だけからいうならば必ずしも必要じゃない。たゞ別の意義を見出すとするならば、また別の是非論というのが当然生まれてまいります。

それはそれとして、面積につきましては先ほど質問してございますから、あとでお答えをたまわると思いますが、放流するとい

うことになりますと、場内散布と違つてまた別にいろいろ疑義を感じざるを得なくなります。

第一の疑義は、これは現実の問題として私も視察して現実にこの目で見て、この耳で説明を聞いてきた。事実、青森県の五所川原のアタカ工業で建設した現場に見られる事実でございますけれども、契約と明らかに相反する数値がございます。

これは前にも申し上げましたけれども、第一点SSでございます。五所川原のあの組合とアタカ工業がかわした契約の内容でSSは不検出、SSが検出されてはいけななんだ。こういう契約でございます。しかし現実に現場で見えますと○・七EPMを検出しております。現実にはこれは契約違反、不検出の契約にもかかわらず実際には検出されている。○・七EPM明らかに契約違反。それから、さらにトータル窒素でございます。先ほど神田議員が窒素につきまして御質問申し上げておりましたが、それに関連もいたしますが、五所川原の場合にトータル窒素の契約は三十PPMでございます。ところが現実にどうなっているか調べてみますと、これは百を切るということ、ということは三十PPMをはるかに上回っていることを物語っているんです。

もう一つ、厚生省ではこれは全国一律でございますけれども、大腸菌群ですね、三千個以下こういうことになっております。五所川原では大腸菌群を調べておりません。これは事実でございます。

それから、あそこに行つて見ますと、機械としてPHメーターが備えつけてあります。そばに行つて見ますとPHの針が作動しております。

こういつたさまざまな点が見られております。これは現実に見てまいつております。こんな不安な機種を鎮山市で採用したらえらいことになりはしないかな。こういう疑義を生ずるのでございます。

以上の点につきまして、具体的にただいま御指摘申し上げました五所川原の実態それぞれにつきましてどうお考えになつてゐるのか、御説明を承ります。

さらに、生物処理工程でカチオンポリマーという有毒性の薬品を添加しておりますが、このカチオンポリマーというのは猛毒をもつておりまして、これは除去することが不可能でございます。残留量が必ずあるんです。魚介類に重大な影響をもたらすおそれがあるということを指摘し、そうしてこの点についてもどうお考えになつておられるのか承ります。

一応これで質問を終え、御答弁によりまして再質問いたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井議員の御質問にお答えをいたします。

第一点は、面積が変わつてきているじゃないかという御質問でございますけれども、これは買収交渉を進めていく段階でそれぞれ変わつてきたわけでございます。それぞれの時点で申し上げた数字はその時点では正しい数字であつたわけでございます。

まず第一点は、福本広志ほかから買うわけでございますけれども、福本氏以外の名義の土地が実際にはもう売買済みで実際には福本氏のものだけれども、登記未済というものが一つ出てきたわけでございます。それから当初予定していなかつたものから用地内に残されては困るということで買収を求められたことがござい

ます。さらにまた福本氏以外の土地で計画上どうしても必要な土地が出てきたこともございます。それから私どもの方のチェック漏れが一筆ございました。こうしたことからの積み重ねの中で結果的に数字の変更がございまして、最終的に今回お願いいたします数字となつたわけでございます。

放流問題からみまして、土地が必要ないじゃないかと、こんな大きな土地が必要ないじゃないかという御指摘がございましたが、確かにそんな面もございまして、最初の交渉がまとめて全部ということで買つてくれるならば売りましょうというようなことがございまして、こういう基本的な線を変更するわけにはいかなかつたわけでございます。

また、出野尾、西長田両区との話し合いの経過の中でも環境保全のためには十分な配慮をするという約束でございまして、そういう意味でやむを得ないものと理解をいたしております。ただ今後この土地の活用、環境整備につきましては十分考えていくつもりでおります。

総経費の金額の十四億幾らと十七億幾ら、約三億の金額の違いでございますけれども、これは当初予算に予定しておりませんでした搬入道路の用地の取得、道路の設定、それから立木の補償等新しく予算として計上をいたしましたわけでございます。

仮契約の件でございますけれども、昭和五十四年十月二十日ついで廃棄物処理整備費国庫補助金の内示がございまして、さらに補助金申請書の提出が十一月十五日までに行われない場合は内示を取り消すこともあり得るという通知があつたわけでございます。補助金申請には添付書類として契約書もしくは仮契約書の写しが

必要であるということでもございましたので、十一月九日に仮契約を締結いたしましたわけでございます。

契約の内容につきましては、工期は昭和五十四年十二月、もちろん議会の承認を得たあとになりますけれども、十二月から昭和五十七年三月三十一日までということになっております。金額は九億二千万円でございまして、昭和五十四年度に一億九百三十六万六千円、五十五年度に五億三千五百五十三万三千円、昭和五十六年度に二億八千万一千円ということになっております。

工事完成保証人は日立造船株式会社取締役社長木下昌雄でございます。

保証期間は三年でございまして、さらに基本的な設計条件といましては、処理能力は百キロリットル、処理方式はエスジェットエアレーションシステムによる高負荷酸化処理方式でございます。

水質基準は、PHは五・八から八・六、BODは五PPM以下、SSは五PPM以下、大腸菌は一ミリリットル当たり三千個以下、CODは三十PPM以下、TNは除去率九五%以上、TPは二PPM以下、色度は無色ということでございます。

さらに、会社の内容についての御質問もございましたけれども、この会社の技術的なものにつきましては種々検討いたしまして、その結果を明らかにしてきたわけでございますので、技術的にはもちろん信頼できる会社だと確信をいたしております。

経営内容につきましては、今回初めてこの問題が出てきたわけでございますけれども、安西議員の御質問にお答えいたしましたように、われわれといたしましてもある程度の調査はいたしました。

たし、また日立造船の傘下にありますして、日立造船が全面的にバックをいたしまして工事完成保証人にもなっているわけでございますので、この施行については心配はないものと理解をいたしております。

さらにまた、カチオンポリマーについての御質問もございましたが、凝縮剤にはカチオンポリマーもあり、アニオンポリマーもあります。有害なものもあるように伺っておりますけれども、無害のものもあるわけでございますので、そういう御心配はいらないと考えています。

以上、答弁を終わります。

○一九番（石井輝久君） 再質問します。

取得しようとする面積が変わってきたという点に対する御説明は経過としてこれは了解いたしました。取得しようとする面積は十三万三千三百四十一平米という提議されておりますから、いままでの経過がどうあつてもこれだけの面積を取得しようというんですから、過去の経過につきましては御説明を承りました。承りました。

ただ一つ、数字として当初説明を受けたのは十一万五千、それから昨日も申し上げましたから数字的には一々例を挙げませんけれども、変わってきておることは事実。ただ一点、昨日民生部長さんの御答弁で十二万二千四百平米が当初の計画であつたと、全く初耳であつた。この数字がどこからきたのかということで聞いてみたんですが、過去の経過ということでただいまの市長の答弁で了承いたしました。

十三万三千三百四十一平方メートルというこの面積は登記簿に

記載されている面積として理解してよろしいのかどうか、その点だけ承ります。

それからもう一点、面積に関連いたしました質問で、アタカさんが六千八百平米あれば施設をつくれますよという説明を私も承っております。これは私どもがいたいただいたアタカ工業株式会社Eシステム処理方式というこの御説明を承ったときに、明らかに説明された方は六千八百平方メートルあれば施設はできますよという説明をしておられました。当局は昨日から二万平方メートルあるいは前には私の質問に対して一万二千ないし一万五千と言つてこられた。一体どつちが本当かということをお先ほど御質問申し上げた。当局は二万平方メートルぐらいが必要なんだ、ところがアタカさんは説明で六千八百平方メートルということを言われた。このところは一体どうなんだ。仮契約をされたそうですから、もう大体図面もできておるでしょうから、一体どつちが本当なのか、これについてお答えがなかったで、この点は再質問いたします。

それから、二カ年計画が三カ年計画になつて、二カ年計画で十四億あれば衛生センターができる。こういうことだつた。ところが二カ年計画を国の補助金がつかないために三カ年計画に変更せざるを得なくなつた。これは事実としてございます。御説明も承りました。ところが三カ年計画になつたら一挙に三億円上つた。この衛生センターをつくるのに十七億円になつたんですよ。これは提案されております。別表にございますとおり、ただいまの市長の御説明ですと、設計をするため、あるいは搬入道路をつくるため、あるいは立木の補償をするために十四億の計画が十七億に

はね上つたんだ。こういう御説明でございますけれども、いずれにしても館山市でつくりうとする衛生センターは十四億で計画していたのが、しかも二カ年計画が三カ年計画になつて三億はね上つて十七億になつてしまつた。こういうことでございます。これに関連して別表についてもうちよつと御質問しようとしたんですが、これはのちの質問でまたお伺いします。

起債との関係もでございます。それから起債の利率が七%から九五%にアップしたという問題もあります。これは円高とかいろいろ理由はありましようけれども、事実として変更に伴う起債が国の補助金がつかなかつたからといつてほんと五十四年度減額補正をしようとしている。ところが起債の面からいくと起債は今度アップする。要するに国の補助金がつかないために一般会計予算で減額をする。借金の方だけ見るとふやす。そのふやす借金には七%の利率が九・五%になつてくる。この問題またあとにします。触れるだけにしておきます。そういう問題もあるということをお申し上げておきます。

それから、仮契約の問題ですが、ただいま市長の御答弁で経過についてはわかりました。国に申請書を出す都合で仮契約を結ぶ。しかも国の方では仮契約ないしは本契約の写しを持つて来いという要求があつた。その点はわかります。しかし九億からの契約をするんです。

もう一点、私はどういう根拠で仮契約を結ぶのか、契約の条項の条項には仮契約をうたつてない。だから仮契約はどんな根拠で結ばれたのか、契約を結ばれた事実はわかりましたけれども。

それから、九億からの仮契約にしても、本契約にしても契約を

結ぶ以上は、九億からですよ、こんな重大な問題だつたら急施議会の招集という手続をなぜおとりにならなかったのか。これは議会軽視もはなはだしいということを私は指摘したい。なにも日にちが決まつておるのだつたら地方自治法で急施議会の招集が可能なんですから、そういう手続をとらずに何の根拠に基づいて九億からの仮契約をされたのか、そういうことを承つたわけでございます。

それからもう一点、ただいま市長から御答弁で市とアタカ工業と水質基準のデータをたゞいましてお示しいただきましたが、ちよつと聞き取りがたい面がございましたので、これは民生部長さんで結構です。もう一ぺん契約の水質基準につきまして計数をお示しいただきたいのでございます。

それから、カチオンポリマーという有毒性の薬品を用いること、これは市長は有毒のものもあるし、無毒のポリマーもある、そのとおりでございます。無毒のものはアニオンポリマー、しかし現実にはアタカが使っているのはカチオンポリマーなんです。市長の答弁は有毒のものもある、無毒のものもある。そのとおりなんです。しかしアタカが現実に五所川原で使つておるのがカチオンポリマー、これはものすごい有毒のものです。

そこで、お伺いいたします。毒性についての認識があまりないようですから伺いますが、しかも市長は技術的に心配ありませんよ。信頼できますよと申しております。言葉だけではなくて具体的に伺いますが、カチオンポリマーを何パーセント使うのか液量当たり、リットル当たりどのくらいのポリマーを添加して使っているか、リットル当たりですよ。大丈夫だというならばそこ

まで調査されておられると思いますが、この点どうなのか。そうして残留量はどのくらいなのか、御説明を承ります。

それから、このカチオンポリマーの致死量というのがある。体内に入ると死んでしまう、そういう量がございします。大丈夫とか技術的に信頼できますよというなら、この致死量がどのくらいなのか、お示しをいただきます。

それからさらにいうと、先ほど神田議員の質問もございましたが、脱窒素これは九〇％と言つてるようですが、学問的に解明されてないという事実がございします。しかし説明では脱窒素大丈夫ですというんだから信頼せざるを得ないんですが、学問的裏づけはいまだにない。これは指摘するだけ。信頼だけです。から、大丈夫というなら大丈夫かなと思わざるを得ないということです。

以上、一応再質問いたしまして、御答弁によりましてもう一ぺん質問させていただきます。

○民生部長（鈴木 力君） お答え申し上げます。

まず第一点の面積の関係でございますけれども、アタカ工業の方から説明されたといういわゆる施設の敷地面積でございますが、六千八百平米につきましては、これは最小限のどうしても広く求められない場合にぎりぎりの面積として六千八百平米でも施設はできます。いわゆる敷地面積でございます。それから二万二千平米と申し上げておりますのは、これは市並びに県の都市計画決定の段階におきます決定された面積でございます。それから十三万三千三百四十一平米これは現在の面積でございますけれども、これにつきましては登記をされたいいわゆる台帳面積でございます。

次に、契約の内容の水質基準でございますけれども、先ほど市長の方から答弁されましたとおりでございますが、いわゆる水素イオンの濃度でございますが、PHでございますが、五・八ないし八・六でございます。BODにつきましては五PPM以下という事です。SSが五PPM以下、大腸菌群が三千個以下、CODが三十PPM以下、トータル窒素がこれは除去率を九五%以上それからトータル磷でございますが二PPM以下、色度が無色という事の契約をいたしてございます。これにつきましては果のいわゆる水質の条例関係の基準よりもはるかに下回る数値でございます。

それから、カチオンポリマーの使用量あるいは残留量、致死量これにつきましてはただいま調査いたしましてお答えいたします。○総務部長（鈴木弘道君） 先ほど御質問のありました仮契約の關係についてお答えいたします。

御承知のとおり、地方自治法の九十六条の第一項第五号の規定に基づきまして条例で定める金額、建設等の關係につきましては九千万以上のものにつきましては議会の議決を待つて正式に契約しなければいけないという規定がございます。

その場合に、議会の同意を得る前にいわゆる競争入札なり、契約行為が存在するわけです。その内容をもつて契約の目的ですとか、方法とかの内容を議会に御提案申し上げて承認を受けるという手続を踏むわけでございますけれども、議会に提案する前の契約これを仮契約と称しておるわけでございまして、議会の同意を得たときに契約を締結する旨の契約というふうに理解しております。

○一九番（石井輝久君） もう一べん質問します。

第一点の面積は、台帳面積これは了承いたしました。

それから、次の必要面積これはただいまの御説明で了承いたしました。質問を打ち切ります。

それから、次の契約の件ですが、これは市の条例がございまして、先ほど御指摘申し上げた条例これには仮契約を結んでいるという条項はありません。先ほど指摘したように九億からの仮契約にしろ、本契約にしろ結ばうとする場合に、緊急に必要に迫られた場合には急施議会を招集して、本来ならば、たてまえ論からいくならば、それで仮契約を結びますよ、あるいは本契約を結びますよと、急施議会の招集手続をとつて一歩踏み出すのが本来の姿。議会制民主主義のもとで九億からのものは仮契約しちやいましたよ。あとから契約案を上程するというのは筋道論、たてまえ論からいけばあたらないと思います。

だから、先ほど私は再質問では急施議会をなぜ開かなかつたのかということでございます。開いて仮契約を結ぶ必要に迫られておると言え、そこで仮契約を、あるいは本契約なり、本来私の理解ではこれは議会軽視につながっていくというふうな理解の仕方を見ざるを得ない。急施議会の招集の手続がとられたんではないだろうか。

なんせ、八十億の予算の中の一割以上を占める請負契約をばんとかつてに締結をして、仮契約して、必要に迫られたという事情は了承しております。理解をしております。しかしそれならばそれで、重大問題ですし、しかも金額のはる契約だつたら急施議会を招集してしかるべきではなからうかというわけでございます。

御答弁をいただきたいと思ひます。議会軽視につながる行為ではなかつたでしょうかと云うことでございます。

それから、使用する薬品の有毒性につきましては、技術的に全然心配はありませんよと云うことで漁協のおそらく皆さんにも説明したと思ひます。しかしその根拠は示されていない。しかも私の方で毒性がありますよと示しております。それに対するお答えが返つてなければ科学的な大丈夫にはなりません。科学的にお答えをいただきます。要求いたします。

それから十一月、先月でございますが、東京都では東京都公害局でし尿処理施設の新設、更新または改良にかかわる水使用合理化指導指針と云うのを昭和五十四年十一月に東京都の公害局でつくつて、都下全関係、都ですから市がいっぱいあります。東京都を初め各市に公害局の指導指針を流しました。十一月、先月です。これは文書ですから、これは秘密文書でも何でもありません。この中では東京都ではアタカ工業のものは採用いたしません。この合理化指導指針の中に、これは理由はございます。理由は申し上げませんけれども、お取りになつて調べていただければわかります。

鴨川でも採用しませんでした。したところもありました。けれども、しかも県の指名頻度と云うのがあります。これは役所でも庶務課でいろいろ業者を指名する。そうすると指名頻度と云うのが一覧表がございます。県のアタカの指名頻度お調べになつたことがありますか。それからほかの例をお調べになつたことがありますか。指名頻度の比較からいつてもきわめて少ない。ゼロに近い。ゼロといつてもいい。ゼロですよ。

松戸市でもはずしています。松戸市の例も、松戸市環境施設二課と云うのでつくつた文章、それから先ほど安西議員の質問でも触れていました鴨川市の例、鴨川市でも借金は幾らか、各社と比較して重役陣から、技術陣から、所有機械器具とか将来にわたつて、しかも銀行の信用度、それから先ほど安西議員も言われました市でも業者の格づけ表が一覧表がございましょう。A、B、C、D分かれております。アタカの場合ははつきり言つてCです。A業者がないかといふとA業者いっぱいあるんです。それをあえて採用に踏み切つたといふことでございますが、私がいま発言をしたそれに対する答弁は求めませんけれども、そういうことでございます。

絶対大丈夫だ、心配ない。こういう説明をされている。経営は日立造船が保証したから大丈夫だろう。それは大丈夫だろうと言わざるを得ない。しかし科学的な面になりますと、ただいま指摘した五所川原では契約に反する稼働状況、実際動いている状況を調べてみても実際に契約に違反している。水質基準がはるかにオーバーしている。こういう事実がございまして、これをどう考えているのかといふのを的確なお答えをいただかなかつたと思ひますが、大丈夫ですよといふので答弁になつていられるとお考えになつていられるかどうか知りませんけれども、とにかく毒性に限つての大丈夫だといふ計数を示してお答えをいただきたいと存じます。

それから、ただいま館山市とアタカが結んでいる水質基準それにつきましても御答弁をいただきました。ところで、館山市で設けました水質基準、館山市の水質基準これは設けてあるのは御承知だと思ひます。館山市の水質基準こちらで申し上げましょうか、



館山市の水質基準BOD五、SS五、大腸菌群三千個以下に決ま  
つてゐる。COD二十、TN二十、磷一、色脱色する。こういうこ  
とに館山市の水質基準はなっております。

よろしいですか、ところがたゞいま示されました契約の内容は  
COD三十、TN九五%以上これはいいとして、磷Pですれ二以  
下、館山市で設けた水質基準と全然違ひじゃないですか、一体ど  
ういうことか、お答えをいただきます。

それからもう一点、これは大体どこでも浄化槽汚泥投入比率、  
よろしいですか、浄化槽汚泥投入比率これは何パーセントですか、  
これは数字ですから簡単にお答え願います。

以上、再質問いたします。

○民生部長（鈴木 力君） 先ほど御質問がございましたカチオン  
ポリマーの使用量でございますが、一日当たり百キロリットルの  
し尿を処理する場合におきまして、二十キログラムの使用を考え  
ております。

なお、残留量あるいは致死量でございますけれども、ここに資  
料いろいろございますけれども、結論的には安全性を説明してい  
るわけでございます。細かくデータはここにございます。いわゆ  
る安全性というものが非常に高い。こういうことを説明しており  
まして、特にEZ方式におきまして薬の使用については他のメー  
カーよりもむしろ安全性が高いということをここに説明されてお  
ります。この薬品につきましては、EZにかかわらずほかのメー  
カーでも全部使用するわけでございますから、その処理過程にお  
きまして安全性を保つような装置で処理される。こういうことが  
ここに書かれております。その程度で御了解願いたいと思います。

それから、館山市におきます水質につきまして、今回の仮契約  
の段階におきます水質保証の違いでございますけれども、市の場  
合におきましては一応二十倍希釈の場合におきます、あるいは果  
におきましては条例にありますのは二十倍希釈、契約におきまし  
ては無希釈の場合でこれだけの要素である。こういうことでござ  
います。単位が違ひわけでございます。

それから、浄化槽汚泥としての比率でございますけれども、い  
ま調査いたします。

○総務部長（鈴木弘道君） 仮契約の関係でございますけれども、  
先ほども申し上げましたように、地方公共団体が締結する契約の  
うち議会の議決を要します契約につきましては、議案を提案する  
時点で契約の相手方等の内容が特定していなければならぬとい  
うことがございます。あらかじめ相手方と仮契約を締結しておき  
まして、議会の議決を経てのちに初めて本契約を締結するとい  
うことでございまして、今回の契約案件が特別な取り扱いをしてお  
るわけではありません。

○一九番（石井輝久君） 総務部長のたゞいまの御答弁、経過とし  
てわかつております。ただやはり手続としては必要に迫られた  
ら、この一件に限つてだけでも急施議会を招集をして締結行為、  
議会の同意を得て契約が成立するのは当然のことです。だから  
議会の議決を必要とするんです。ただ八十億の財政で九億からの  
契約行為に向かうとするならば急施、必要に迫られた場合には、  
おわかりでしょう。自治法には急施議会の招集の条項はあるん  
です。それから、それをなぜしなかつたのかということ。これは議会監視  
ではなからうかという感じを持ちますよということを申し上げて

ある。自治法に明記されているんだから、今後の問題として重要案件については必要に迫られたら急施議会でも招集してやつてくださいということを要望して、この点は打ち切ります。

それから、きわめて私はおかしいと思つたのは、先ほどは毒性のあるポリマーもありますよ、無毒のものもありますよというお答えを市長からいただいた。その次にカチオンポリマー五所川原市で使っているんですよというふうに言つた。このカチオンポリマー猛毒を持っていますよと申し上げた。大丈夫だよというなら科学的資料をお示しく下さいということを申し上げた。

そうすると、いろいろの資料はあるけれども、他のメーカーよりも安全性が高いんですよというお答え、それでは言葉のお答えしかも一日当たり、百キロリットル当たり二十キログラムのカチオンポリマーを使う。こういう御報告。初めてカチオンポリマーを使いますよというお答え。それをアニオンを使いますよというなら質問は打ち切り。アニオンは毒性がないんだから、しかし、カチオンを一日二十キロも使いますよということ、百キロ当たり二十キロも使いますよというお答え。それに対する毒性はどうかというとお答えはない。ほかのメーカーより安全性が高いというお答え。ほかのメーカーはアニオンポリマーを使っているんですよ。私どもの視察でも必ず行くと、おたくはアニオンですか、カチオンですかと、カチオンを使っているのはアタカだけですよ。だから聞いているんですよ。他のメーカーより安全性が高い、他のメーカーはアニオンを使っているんですよ。答弁になつていませんよ。ほかのメーカーはアニオン使っている。アタカはカチオンを使っている。だから疑義を感じざるを得ない。不安を持たざる

を得ない。このように申し上げているんですよ。大丈夫だよというなら、水上の例を申し上げましょうか、水上でカチオンを使っていますよ。調査結果をはつきり数字を計数でお示しいただきたいんですよ。なんだつたら水上の例を申し上げましょうか、残留量。

それから、ただいま再質問で申し上げた浄化槽汚泥投入比率は契約にあつて保証値を求めなかつたんですよ、浄化槽汚泥投入比率の保証は調査しているというから調査の結果を待ちます。

それからもう一つ、先ほどの質問で館山市の水質基準はCODで二十PPM、TNで二十PPM以下、磷で一PPM以下、色脱色する。こういうふうになつております。

ところが、先ほどの御説明によりますと、市長の答弁でもCODは三十、BODとSSと大腸菌はいいです。館山の水質基準とびつたり一致しております。BOD五、SS五、大腸菌群数が三千個以下こまではいいんですよ。館山で設けた水質基準と合致しております。CODは館山で設けたのが二十PPM以下、それがただいまの御説明だと三十、トータル窒素は九五%以上除去、館山市では二十を求めております。

先ほど、果よりもよつほど契約の数値が低い、当然です。館山の方がはるかに低いんだから、館山で水質基準を設けたよりはるかにオーバにしているんじゃないですか。COD、磷も二倍、館山で求めるのは一PPM以下、御説明は二これだけでも。

それから、カチオンの点非常におかしいと思います。明確にお答えをいただきたいと存じます。

○議長(石井 正君) 午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再開いたします。

午後零時 七分 休 憩

午後一時十二分 再 開

○議長（石井 正君） 午後の出席議員数二十八名、休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

○市長（半澤良一君） 石井議員の御質問にお答えをいたします。

第一点は、カチオンポリマーの毒性の件でございますが、この件につきましては、カチオンポリマーに毒性のあることは事実でございますが、どんな凝集剤を使うかということはそれぞれの処理場が判断して使うものでございまして、アタカのIZ方式の場合にカチオンを使わなければいけないということはございませんので、そうした疑問がありますので、アニオンポリマーまたは中性のノニオンポリマーを使うことといたしまして、さらにカチオンポリマーの方がより効果が高いという場合には、その毒性を十分検討した上で使うことにしたいと思っております。

それから、浄化槽の汚泥の投入比率でございますが、現在館山市の場合は二〇％程度でございますが、今回アタカとの話し合いの中では五〇％まで可能などということで設計を依頼してございますが、ただ明文化してございせんので、その点について御心配があるようであれば、本契約の際に何らかの形で明文化することとしたいと思います。

水質基準につきましては、民生部長の方からお答えをいたします。

○民生部長（鈴木 力君） お尋ねのありました処理水の問題でございますけれども、現在の市の条例におきましては水質基準は設け

てございません。

お尋ねがございました水質につきましては、昭和五十一年の七月九日付をもちまして館山市の清掃事業運営審議会に衛生センター建設の問題につきましてお諮りいたしましたわけでございますが、その際に答申いたしました水質の目標値を保つようにということで御指摘、答申がございました数値がBODで九PPM以下と、それからなおSSで二十PPM以下、トータル窒素におきましては二十PPM以下、それからトータル磷におきまして一PPM以下こういうことでございました。これはあくまでも二十倍希釈におきますいわれる水質でございます。

これを、仮りに無希釈の場合に換算いたしますと、BODにおきましては百八十PPM以下、なおSSにおきましては四百PPM以下、トータル窒素におきましては四百PPM以下、トータル磷におきましては二十PPM以下このように換算できるわけでございます。

○一九番（石井輝久君） これをもちまして一応再質問を終わって、さらにもう一べんいまの関連の御質問を再度のほどお願いしたいと思っております。

○議長（石井 正君） これで一応時間切れですから、質問をこれで終結してもらいます。

以上で、一九番議員の質疑は終了します。

次、一〇番議員矢野寿夫君。

（一〇番議員矢野寿夫君登壇）

○一〇番（矢野寿夫君） 通告してあります議案第五十六号ないし議案第六十二号について御質問したいわけですが、午前中からの

質疑によりまして大方は、理解できたわけですが、衛生センターのこの契約の締結に当たりまして、先ほど市長の御答弁では保証期間が三年を目安としているというふうな御答弁がございましたんですが、これはどちらから出された条件であるか、その点についてお聞きしたいと思います。

それから、当然新しいし尿処理施設になりますと、現在の施設よりもランニングコストは当然上昇するわけで、これが完成のあかつきには汲み取り料にはねかえってくるんじゃないかというように懸念されるわけですが、この点についていま検討されておるか。この二点についてお聞きしたいと思います。

次に、議案第六十二号についてですが、この点につきましても昨日同様古賀議員より通告質問にて大方理解いたしました。さきの全員協議会で市長のお話ですと、四十一年当時の協定書、防衛庁でこの土地を払い下げ、鷹の島から沖の島に通ずる道路等用地とし、延長千三百六十メートル、幅員十五メートル、一部十八メートルを開放するとともに通行を認めることで確認されたところですが、これはただ単に確認で終ったのであるか、また新しい協定書を作成する準備を進めておるかをお聞きしたいと思います。

先ほどの御答弁ですと、微調整を行ったということですが、もしその微調整の内容がお聞かせできるのであれば、お聞きしたいと思います。

また、道路完成後防衛庁より払い下げの意思が市におありかどうか、それをお聞きしたいと思います。

次に、昨日の市長の古賀議員に対する御答弁で理解しておりますが、確認の意味でお聞きします。道路完成までの間、何年か経過するわけですが、その間の沖の島と鷹の島を結ぶ陸道敷の補修についてどのようにされていくか。

この二点についてお聞きしたいと思います。以上です。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 古賀議員の御質問にお答えをいたします。

保証期間は通常の契約では二年になつておりますけれども、今回の場合はこちらから申し入れをいたしまして保証期間を三年といたしましたわけでございます。

また、稼働後の定期的な保守点検については、三年の保証期間が経過いたしましたのちにおいても定期的に行わせるように協定を行う予定でございます。以上のように維持管理に万全を期しまして、保守点検の不備による修繕等の経費がかからないように考えております。

次に、議案第六十二号についてであります。四十一年当時協定を結びましたわけでございますが、今回はその再確認ということでございます。新しい協定ではございません。しかし情勢の変化等もございまして、一部微調整をいたしましたわけでございます。

あの敷地の西側、沖の島寄りにつきましては道路の長さ二百メートル、幅二十五メートルというのが四十一年の契約でございましたけれども、その後の利用状況等を見まして二百メートルでは少ないということでございまして、約三百メートルを話し合いました。そのかわり二百メートルの二十五メートルということでございまして、面積が五千平方でございましたので、約三百メートルというように考えまして、一部十八メートルと申し

上げましたとおり、あの部分については幅十八メートルを認めさせただけでございます。

で、この道路の完成までは確かに時間がかかると思いますが、これは海上自衛隊館山基地と協議を得ながら、市費を組みまして随時補修をして市民に不便をかけないように努めていきたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

○一〇番（安戸寿夫君） 市長さんの御答弁で理解いたしました。答弁漏れが、いわゆるランニングコストの上昇により料金にはね上るかどうかということの御答弁がいただけなかったわけです。

それから、防衛庁より道路が完成したあとの協定書に基づいた千六百三十メートル、幅員十五メートル一部十八メートルの開放された道路等について将来払い下げの意思があるかどうかということの御質問もしたわけですが、そのお答えもいただけなかったもので、これは質問の回数に入れないでください。

○市長（半澤良一君） 新しい設備をつくりますと、当然またランニングコストがかかるわけでございますが、これは現在の処理方法と比べてはるかに高度な第三次処理までいたしますので、どうしてもランニングコストがかかりますが、これはやはり受益者負担の原則に立ちまして御負担を願わなければいけないかと考えます。

また、道路の払い下げの件でございますが、防衛庁がその土地を買収してそしてそれを市に開放するという形でございますので、これを市道として払い下げることは考えておりません。またできないことだと思えます。

○一〇番（安戸寿夫君） まず、衛生センターの件ですけれども、保証期間市が一応三年を申し入れて保証期間三年としたというところで、このEZ方式というのはもうご存じのとおり新しい方式であつて十年、二十年と続いた機械ではないわけです。ですから、保証期間はなるべく長い方がいいというふうに私は考えておるわけですけれども、まして九億からのお金をかけてつくるわけですから、少なくとも五年は必要じゃないかと私は考えておるわけですが、そのへんについて一考の余地がないかどうか、お聞きいたします。

それと、細かいことですが、たとえばEZの、いわゆる下に特殊な循環ポンプがございすね、あのポンプはどのぐらいの耐久性があるのか。そしてポンプをスベアまで設置するのかどうか。その点について一つお聞かせ願いたいと思います。

それから、沖の島の道路の問題ですが、これは防衛庁が一応買つて市に開放するという形で、将来護岸もこしらえていくというお話でございますので、そのことだけをとりえればかなり前進して、沖の島開発にかなりの見通しができたという考えも持つわけですけれども、あくまで協定書でありまして、一方的にまかりならぬということで、一方的に破棄されるという、午前中神田議員が危惧されていたように本来の意味での防衛施設として使いたいといった場合に、かなりの観光面でのダメージが大きくなるわけでございます。そういう意味で、市長は紳士協定だということですから、その点について何らかの確認の協定書を取り交わす必要があるんじゃないかと私は考えるんですが、その点についても一度お聞きしたいと思います。

それから、道路の補修の件ですけれども、これはもう再三私も申し上げておりますし、他の議員からもいろいろな発言が過去何回となされているわけですが、夏になるとかなり自動車が入り込むわけです。ほこりがものすごくたちまして、とても歩いてあそこを通つていられないという状態もあるわけなんで、ただ単に土を持つてきて穴を埋めるといっただけでなく、ほこりのたないような軽いほこりを防ぐ防じん処理のような形のものを夏の間だけでもできないものかどうか。そういう補修ができないものかどうか。その点についてお聞きします。

○民生部長（鈴木 力君） お答えいたしますが、IⅨシステムによる処理方式の評価ということで財団法人の日本環境衛生センターにおきまして評価がございしますが、その評価によりますと、耐久性と耐用年数ということで、IⅨジェットエアレーションシステムの特殊循環ポンプ以外は在来し尿処理施設に使用されている装置で特に問題はないと、このように言われておりまして、特殊循環ポンプについても材質に注意すれば問題はないと、このように評価されておりまして、また消耗部品を除く主要部品につきましては七年ないし八年程度の耐用年数このように評価しております。

なお、保証期間につきましては三年ということでございまして五年というお言葉でございましたけれども、現在におきましてはちよつと無理じゃなからうかと、このように考えておる次第でございます。

なお、循環ポンプにつきましては予備を備えつける。こういう計画のもとに進んでおります。

○経済部長（太田博雄君） 沖の島に通じます道路の夏季の対策といたうことでございしますけれども、またその時点の状況を見まして善処してまいりたいと思っております。

○一〇番（宍戸寿夫君） 耐久性については七年から十年というところでございしますけれども、このIⅨ方式の特殊循環ポンプというのはかなり問題のあるポンプのようですので、当然スベアも必要であるというよりな形が出てくるわけなんで、十分材質とか、細かい部品についても厳密にチェックして、機械完成後命の綱であるポンプがだめにならないような方法をがちつとつていただきたいというふうに考えるわけです。

それから、一応保証期間は三年ということでしようがないんじゃないかというところですが、しからは保守点検ですね、保守点検の契約はどういうふうにするのか、先ほど市長はできるだけランニングコストのかわからないような方法をとりたいというんですが、保守点検というのは有料でやるのか、無料でやるのか。その点についてお聞きしたいと思います。

それから、沖の島の件につきましては、その時点で善処したいということですが、こまめに見に行つていただいて夏海水浴に来るお客さんや、釣りに来る観光客に悪いイメージを与えないような方法をぜひとつていただきたいということでこの質問は打ち切ります。

○民生部長（鈴木 力君） 処理装置の保守点検の問題でございしますけれども、これにつきましては会社に対して約十年間程度は無償でもつて保守点検をしていただきたい。このように考えておまして、そのようにお願いする予定であります。

○議長（石井 正君） 以上で、質問は終了しますが、午前中答弁の保留がございますので、御答弁願います。

○民生部長（鈴木 力君） 神田議員からお尋ねのございました藤原の運動公園の用地の取得の際の価格でございますけれども、昭和四十六年十二月に市の土地開発公社が買収しております、その際の価格は山林で反当百万円ということで買い受けをしております。

それから、安西議員からお尋ねのございましたエヌ方式の自治体における採用し、かつ稼働している自治体でございますけれども、名前を申し上げますと、青森県の西北五衛生処理組合いわゆる五所川原にございますことがまず採用しております。それから秋田県にあります井川町におきましても採用しております。それから広島県の音戸町・倉橋町広域行政組合におきまして採用、稼働しております。それから群馬県の富士見村におきましてやはり採用されております。これが現在採用されかつ稼働しておるエヌ方式の状況でございます。なお、この十二月に愛媛県の三瓶町・明浜町衛生事務組合におきまして建設完了しまして十二月に稼働する。このように聞き及んでおります。

以上でございます。

○二九番（安西益男君） 私が先ほどお尋ねしたのは館山市と同規模、匹敵するぐらいのそういう個所の完成したところがあるか、いまのは大変小さなところでしよう。規模的には問題がある。

確かに、五所川原見に行きましたが、当初からエヌ方式ということで設計したわけではないんです。そういう点で、完全に当初からエヌ方式を設計の段階から、完成した個所はどこかという

ことで、しかも同規模の館山市程度の規模はどうだろうかということをお尋ねしたわけです。その点おわかりでしたらお答え願います。

○民生部長（鈴木 力君） ただいまお答え申し上げました処理場名の実際でございますけれども、大体やはり処理能力というものが館山市で予定しております百キロ未満のところでございます。五所川原におきましては八十キロリットルでございますけれども、ここは在来方式にエヌを併用したという形でございますので、若干違うわけでございます。ほかは、いま申し上げましたところはほとんど館山で予定しております処理能力以下のところでございます。

○議長（石井 正君） 以上で、通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で質疑はございませんか。——御質疑なしと認めます。

以上で、質疑を終結いたします。

## 委員会付託

○議長（石井 正君） ただいま議題となつております議案第五十一号ないし議案第六十二号の各議案は、お手もとに配付の議案付託表のとおりそれぞれの常任委員会に付託いたします。

## 議案の 上 程

○議長（石井 正君） 日程第二、議案第六十三号ないし議案第六十五号昭和五十四年度館山市一般会計及び特別会計補正予算を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

○議長（石井 正君） これより質疑に入ります。

通告がありますので順次発言を許します。

一番議員神田守隆君。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案の六十三号一般会計の補正予算について質問を行います。

まず、歳出の面の第二款総務費の補正三千九十二万八千円について何点か質問をいたします。

まず第一点は、耐震性井戸付貯水装置工事の請負費の補正が九百万円計上されているわけですが、当初予算が防災器材格納庫請負工事を含めて一千三百七十万円ということでありまして、すから補正予算がきわめて多いというふうに思われるわけですが、この点についての御説明を願いたいというふうに思うわけがあります。

次に、同じく総務費の中の諸費についてありますが、この中で渚銀座の警察官立ち寄り所移転工事請負費として二十五万円が計上されているわけですが、警察法においては警察に要する経費は当該都道府県が支弁するというふうになっているわけでありまして、市で警察官立ち寄り所の経費を負担するのはこの規定に違反する違法な支出ではないかということでありまして。

次に、第四款衛生費の補正、減額の六千四百九十六万三千円について質問いたします。この問題についてはこれまで契約の問題こうしたところで多く触れてきた問題があるわけなので、なるべ

く繰り返しにしないよう質問するわけですが、予算の面からの質問ということで御理解を願いたいと思います。

用地の購入費八千二百万円の補正は搬入道路用地の購入費がほとんどではないかと思うわけですが、この面積についてお伺いをいたします。

次に、立木補償費ということで一千四百七十八万六千円が計上されているわけですが、これは全く新しい事柄なので、なぜ当初予算の中でなかつたものがいま出てきたのか、御説明を願いたいと思います。またその際の補償はどういう基準で、どなたに対してなされるものか、御質問いたします。

次に、第八款土木費の補正二千五百三十五万六千円の減額の補正についてであります。都市下水路測量設計委託料あるいは公園基本計画委託料七百十二万円について、この予算についての新しい事柄であろうというふうに思うわけで、御説明をお願いしたいと思います。

次に、街路工事請負費一千百五十二万円の減額の補正は、川名橋かけかえ工事請負費ということに思うわけですが、この川名橋のかけかえ工事はきわめてその進捗が早く完成されることが望まれるわけでありまして。こうした減額の補正ということでありまして、工事の進捗について車両が通過できるということはいつ頃になるのか非常に危惧をするわけでありまして。この点についての御説明をお願いしたいと思います。

次に、同じく公園費として二千五百万円の減額があるわけですが、館山の運動公園整備事業負担金が減額をされたわけですが、当初五千七百五十万円の予算であるわけでありましてから、



かなりの減額ということであるわけです。工事期間の繰り延べというようなことがあるのか、これについての御説明を願うわけがあります。

六十五号議案の水道事業特別会計の補正予算についての質問があります。これは企業債の補正ということで水道建設改良事業の利率が七%以内から九・五%以内に補正をするわけであり、この九・五%という利率は高い利率だというふうに思うわけであり、七%から九・五%に大きく利率アップをするわけですが、これについての御説明を願いたいというふうに思うわけがあります。

特に、水道は、現在の水のコストは三分の一が利息であるというように現在の体質からして、きわめて重要な問題を持つているというふうに思うわけがあります。

以上であります。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

議案第六十三号一般会計補正予算についてであります。耐震性井戸貯水装置について、これは当初は県の補助基準を参考として当初予算に積算したのでございますが、本年度に入りまして県の基準が増額されたことによりまして再検討いたしましたところ、各装置の単価が当初の見込みよりも相当膨張することが判明いたしましたので、これが補正を願つてこの際より完全なものを設置しようとするものでございます。

それから、渚銀座の警察官立ち寄り所の件でございますが、これは警察が必要としているいわゆる駐在所ではございませんので

ご存じのような渚銀座の状況でございますので、地元の人たちがあそこに立ち寄り所をつくりまして、そして市に寄付をされ、そして警察の協力を得まして立ち寄り所として利用していただくわけでございます。今般、土地所有者の事情がございましたので移転をすることになったわけでございますので、警察の建物ではございません。あくまでも市からお願いをしているところでございます。以下の問題につきましては、それぞれ大変細かい問題もござい、ますので、担当部長より御説明をいたします。

○民生部長(鈴木 力君) 衛生費の中の衛生センター建設費でございますが、その中の十七節公有財産購入費八千二百万円でございますが、このうち衛生センター搬入車道路用地購入費とございますが、その面積でございますが、現在面積におきましては約二万四千平米を見込んでおります。

次に、二十二節の補償補填及び賠償金でございますが、この立木補償につきましては当初予算に計上してございまして、今回お願いしたわけでございます。設計ができましたあかつきに確定するわけでございますが、現在の予算の段階におきましてはある程度の見込みをいたした次第でございます。

立木補償の関係でございますが、この補償基準につきましては一応千葉県におきまして最近同じような条件でもつてこのような売買が行われておりまして、県の補償基準に基づきまして積算をいたしましたような次第でございます。なお立木補償は進入搬路の道路部分だけでございます。

○経済部長(太田博雄君) 土木費の中の都市計画費十三節委託料について御説明申し上げます。七百十二万についてでございます

けれども、これは八幡都市下水路費、富士ディーゼルの中を通つて平久里川まで通じます五百八十メートルの下水路の設計委託料と、城山公園の基本的方向を定めまして、その概要を把握するための基本計画の委託料がこの七百十二万円でございます。

十五節の工事請負費の千五百五十二万でございますけれども、これは川名橋のかけかえ工事におきます請負費の残でございます。現在川名橋の当初の計画といたしましては、完成は三月いっぱいという計画でございましたけれども、その後地元等の強い要望がございまして、私の方も工事の事業所の方にいろいろお話し上げまして、二月初旬までには完成するという現在見通しがついておるわけでございます。

その次の十九節の負担金補助及び交付金の件でございますけれども、これは館山運動公園の整備事業の件でございますけれども事業費の減と率の改定がございまして、減の二千五百万円を計上いたしましたわけでございます。

○水道課長（庄司利光君） 水道企業におきます企業債の利率の補正でございますけれども、現在水道事業の企業債の予定額の決定の追加がまだ決まつておりません。そのような関係で、市中銀行から融資を受けるような縁故債が決まつたような場合には、かなり高率な利子になるかと思うわけでございますので、一般会計に同率の九・五％以内とお願いする次第でございます。

○一番（神田守隆君） 再質問をさせていただきます。

耐震性の井戸貯水装置の設置工事請負費の問題では、県の基準が増額されて、より市民の安全を守る上で完備した設備にする、こういうことでございますので、理解をいたすところでござ

います。

次の渚銀座の警察官の立ち寄り所でありまして、市長がいま答弁の中で、渚銀座のいまのような状態でありまして、こういうようなお話があつたわけですから、当然そういう状態であるわけですから、地元の方々が立ち寄り所をつくるということではなくて、警察が本来つくるべきであろうというふうに思うわけで、警察官の派出所なり、その建設について市として要望等を県に働きかけたのかどうか。その点について質問をしたいと思うわけであります。またそういうことをするのが当然ではないかというふうに思うわけであります。

それから、立木の補償の問題でありますけれども、私が質問いたしましたことは、どういう基準でということ、どなたに對してされるのか。県の補償基準によつて組んだということで、進入搬路の道路部分ということはこれから購入する土地の部分についてではないかと思うわけでありますけれども、通常こういう土地の購入に伴つてそこにある立木についての権利そのものが購入されるのではないかと、いうふうに理解をするわけですが、その点で土地の購入費の中にこういうものが含まれてないのだとするならば、その分事実上土地の値段が高いというふうに理解をしてよろしいものであるかどうか、お尋ねをいたします。

それから、土木費の中の川名橋の問題でありますけれども、当初の計画では三月であつた完成が、それが二月初旬に一応通行の見込みだ。完成の見込みだ。それ自体としては大変喜ばしいことであると歓迎するわけですが、通常そういうことで工事を

急がせるなりということがあれば、予算の増額ということは考えられるかと思うんですけども、減額というのはどういふことかちよつと理解をできないので、説明を願いたいというふうに思います。

それから、運動公園の問題については率の改定、事業費の減といふことがあつたといふことで、工事期間の繰り延べといふことについては、それ自体としては計画が遅れるといふようなことはないといふことで理解してよろしいかどうか。以上。

○市長（半澤良一君） 警察官立ち寄り所の件でございますけれども、警察署としては駐在所を置くほどのことはないといふことでございます。しかし市民の要望もございますので、あれば立ち寄る。そういうことでございます。

○経済部長（太田博雄君） 川名橋の件でございますけれども、これは基礎におきまして若干の設計変更がございましたものもありましたので、このような額になつたわけでございますが、突貫工事につきましては業者の御協力を得てやつておるわけでございまして、予算面については変動はいたしておりません。

それから、運動公園でございすけれども、現在のところ一応計画どおり進むではないかといふことを考えておりますけれども、市長初め上京いたしましたしてそれぞれ促進方をたえず陳情をいたしておるわけでございます。

○民生部長（鈴木 力君） 搬入車道路の用地の買収につきましてお尋ねがございましたが、立木補償費が含まれていないとするならば用地の買収費が高いんではないか、こういうお尋ねでございますが、搬入車道路の用地の中には山林だけではございませんで

宅地あるいは農地が一部含まれております。そういうような関係で総額八千二百万という価格で見積りしたわけでございます。

なお、立木補償費につきましては造林をいたしまして、その後当然管理をいたしております林、杉の山林でございすので、そのような価格で予定をいたした次第でございます。

○一番（神田守隆君） 大体説明はわかりましたけれども、渚銀座の警察官の立ち寄り所の問題で市として警察に対して要望したと警察の判断としては駐在所を置くほどのことではないといふ判断であつたといふことで、市としてはその中で地元の方が立ち寄り所をつくつた。こういう経過だといふことでそのこと自体としてはわかるわけでありますが、これはやはり警察の判断が、地元の方が立ち寄り所までつくらなければおつかなくて困るんだといふことでつくるわけですから、警察の判断それ自体がおかしいんではないかと私は思うわけであります。そういうことで市としてもこの問題についてやはり警察に対して強くこのことを要望するべきではないかといふことを私は思うわけであります。

それから、立木の補償の問題についても一応了解をいたします。それから、川名橋のかけかえ工事ですけれども、減額の補正はなかつたといふお話ですけれども、こちらの説明資料ではそういうふうな資料になつておるんじゃないですか。説明資料がありますね、二四ページ街路工事請負費千百五十二万補正額これの説明といふことで川名橋工事請負費と書いてありますけれども。

○経済部長（太田博雄君） 先ほど申し上げましたとおり、当時基礎といたしましてくいを打つ予定でおつたわけでございますけれども、岩盤が出たためにくいを打たずに済んだわけでございます。

○一番（神田守隆君） 以上で、大体私の質問を終るわけですが、水道の問題で一言付言しておきたいと思うわけですが、利率を七％から九・五％と一般会計に見習つてやつたというわけですが、水道の現在の状態から見たとときに非常に利息の支払い、三分の一は利息を飲んでるという状態であるわけですから、安易にこういう問題がそういうことで考えられてもいい。特に企業債にあつては利率の高い繰上債ということがある。特に企業債にあつては利率の高い繰上債ということがある。を願いたいということで私の質問を終わります。

議長（石井 正君） 以上で、一番議員の質問を終わります。  
次、一九番議員石井輝久君。

（一九番議員石井輝久君登壇）

○一九番（石井輝久君） 午前中の通告に引き続きまして若干の質問を行います。

最初の質問は、議案六十三号中五ページの第二表継続費の補正につきましてでございます。これは次のページの第四表地方債の補正とも関連いたします。内容は衛生センターの起債でございます。また第二表は衛生センターそのものの計画が五十四、五十五年年度にわたつて十四億七千二百萬円で実施しようとした計画が国の補助金の見込み違いを理由として三カ年継続、つまり五十四年度、五十五年、五十六年度三カ年計画に変更せざるを得なかつたということをお話しておるわけですが、先ほども若干触れましたが、要するに二カ年計画十四億七千二百萬円で衛生センターを建設しようとした、その計画がくずれて三カ年計画になり、その予算額が十四億円であつたのが十七億にふえた。これが

第二表の継続費補正の内容でございます。

先ほど、市長から答弁をいただきました。市長の御答弁は搬入道路をつくるため、立木の補償をするため、設計委託料たしかこの三点を挙げて三億のアップの理由とされておられたようでございますが、この三億アップの内訳につきましてもう少し計数的に御説明をいただきたいと存じます。

それから第二点といたしまして、第四表地方債補正でございます。衛生センター建設事業補正前で五億一千五百萬、補正後五億三千九百萬ということでございます。これはつまり今年度の起債の限度額を五億一千五百萬から五億三千萬、要するに今年度の起債がこれだけふえるということでございます。要するに起債はアップ、国の補助金はダウンということでございます。

しかも、先ほど神田議員も触れておられました、この利率は七％であつたのが九・五％にふえるという点、これは先ほどもちよつと触れましたが、利率のアップということはこの衛生センターに限らず、以下もちろんそれぞれ起債というものはいろんな国際的な為替相場等々からくるいろんな事情がございます、利率が全部アップされておることは十分了解できるのでございますが、要するに起債の限度額が五億一千五百萬だつたのが五億三千萬にアップされる。はね上つておる。それから利率がふえている。将来にわたつて要するに館山市にこれだけ借金がふえていく。これはとりもなおさず今後公債費として市民の肩にかかってくる。こういうことを物語つておると思うのでございます。

ですから、財政の上からいきますと、国の方でも国債の発行を抑制するという方向に真剣に取り組んでおるようでございますが、

中央、地方を問わず起債の発行これにつきましては抑制をしておかなければならないという昨今の事情でございますが、ここで五億一千五百万を五億三千万に起債をアップしようとしてされていることに對する財政上の御所見を承りたいと存じます。

利率のアップにつきましては説明を要しないと思いますが、利率のアップに對しましても将来公債費の増高ということにもつながりますので、簡単に御説明をいただきたいと存じます。

次は、一四ページでございますが、やはり十七款市債と関連いたします。ここでは、この予算書で補正前の額五億一千五百万これは六ページの地方債第四表これとの比較におきまして補正前の額五億一千五百万これは合致しておりますが、六ページの第四表で五億三千万に限度額を引き上げております。それでもなおかつ一四ページにございます二目衛生費補正額二千八百二十万円、計で五億四千三百二十万円になっております。四表の市債の限度額五億三千九十万円と、これと一四ページの市債の一項市債二目衛生債の合計額五億四千三百二十万円、これとは一体どういふふうに事務的になつてゐるのか御説明を承りたいと存じます。この差について承りたいと存じます。

さらに、議案六十三号中二ページの一表十四款繰入金というのがございます。三千八百万円基金繰入金でございます。これは減額補正これは歳入歳出ともに記載されております。歳入歳出補正予算事項別明細書歳入面で一四ページ繰入金三千八百万減額、歳出の面で四款衛生費三千八百万特定財源中のその他、これは基金繰入金でございますけれども、それから一四ページにいきまして十四款繰入金一項基金繰入金二目財政調整基金繰入金三千八

百万円の減、ここで財政調整基金繰入金がゼロになつておるといふこと、これは衛生センターの歳入の三千八百万減との関連がございますが、この減額になつてきた理由について御説明を承りたいと存じます。

続きまして、二〇ページの衛生センター建設費中十五節工事請負費一億六千九百四十四千円の減額補正について伺つておきます。先ほどの質問でも触れてありましたが、これは当初計画の見込み違いによつてであることは御説明でよくわかります。ですから、この点は特に触れませんが、これはいままさにこれから衛生センターの建設にかかろうとする予算計上でございますが、これに関連いたしまして、先ほどこの建設しようとする衛生センターで將來尿処理にあたるその尿処理の工程の中でカチオンポリマーを使うという問題、先ほど午前中の質問に対する午後の答弁で、市長からカチオンポリマーというのは毒性があるので検討するといふんですか、ちよつと意味が十二分に汲み取れなかつたんで、その点につきまして再度質問しておきます。

要するに、先ほどの答弁でも明らかになりましたように、カチオンポリマーを百キロリットル当たり、一日当たり二十キログラムのカチオンポリマーを使うという御答弁がございました。

このカチオンポリマーの毒性につきまして私は質問いたしました。が、その質問の中で非常に重大と私が考へてゐる問題がございます。それは何かと申しますと、先ほど御答弁をいただいております。私の質問に對する確たる御答弁をいただいてない。それは何かといふと、カチオンポリマーを使つた場合に全部ゼロにすることができないんだ。必ず残留量があるんだ、残留量はど

のぐらゐを見込んでゐるのか。当局側はカチオンポリマーを使い、また水質基準もしつかりしてゐるから被害はないんだ、技術的に大丈夫だ、学問的にも大丈夫だという御説明だけれども、それは科学的にはつきりと計数を示して安心感を与えてもらいたいという質問に対して、確たる計数を挙げてのお答えがなかつた。そこで残留量は幾らぐらゐに見込んでゐるのかということが一つ。

それから、先ほども触れましたが、必ずカチオンポリマーの毒性は致死量というのがあります。お調べだろうと思ひます。だからどれぐらゐで、致死量が絶対大丈夫だよという御答弁ですから、絶対大丈夫だという計数的に科学的に保証を与えてもらいたい。

それから、浄化槽汚泥投入比率を何パーセントか、ただいま市長は契約に明文化してはないけれども五〇％程度こういうお答えでございました。五〇％程度というのは一体今後どうされるというんですか、工事を発注しようとしておられる予算を提案しておられる。保証を得られないまま工事を発注するおつもりなのかどうか、この点をお伺ひします。

それから、さらに先ほどの御答弁によつて、館山市の水質基準は昭和五十一年七月九日の市の清掃審議会これで、条例にはない確かにそのとおり条例は定めてないけれども、清掃審でこれは先輩の菊井議員が当時会長をしておられた清掃審、慎重に審議をされた結果水質基準を設けました。それが先ほど指摘しましたBODで五PPM、SSで五PPMこれは先ほどの御答弁にあつたアタカとの契約の内容と合致しています。よろしいですか、館山市で設けたBOD五、アタカと仮契約ですかその内容で五PPMこれは合致しています。SSで五、館山市の清掃審議会で定めた目

標五に対して、契約数値がSSが五これは合致しております。大腸菌群これはもう申すまでもなく厚生省で三千個以内、これはアタカと契約の内容として三千合致しております。

ところで、先ほど二十倍希釈だからということと換算としてなにか御説明がありましたか、そういうことではなくて、要するに放流されて出ていく水質の中にBODはこれこれです、五PPMです、館山の清掃審は菊井議員が会長として目標を定めた。そしていま契約をしようとしているアタカとの間では五PPMBOD合致している。SSも五PPM、アタカとの契約五PPM合致しています。大腸菌群これもよろしいと。

ところで、CODは館山市の清掃審は二十倍希釈だから換算とか何とかでなくて、水質基準として二十を求めております。館山市の清掃審はCODの水質二十PPM、ところがいまアタカと契約しようとしているその内容はBOD、SS、大腸菌は合致しておるけれども、CODは館山市の清掃審は二十を水質基準として求めているにもかかわらず三十、要するにCODは館山市で求めている水質基準よりオーバーしていると、よろしいんだという契約。

それから、トータル窒素これは館山市で二十PPMを求めました。しかし契約は、先ほどの御答弁で明らかにりましたが、九五％以上ということでございますから、これはPPMとパーセントの関連ですから、九五を除去できればまあ普通以上の除去率であろうと私は思ひます。ですから、トータル窒素につきましては申し上げるまでもありません。これが達成できればよろしいと思ひます。

ただ、先ほど申し上げましたように、アタカ方式でトータル窒素をこれだけ除去できるという学問的な背景として裏づけがないということは、これは申し上げるにとどめておきます。学問的な背景がないと言われているということを申し上げるにとどめておきます。

それから、燐でございますが、燐は館山市の清掃審議会が求めたのは一PFM、それから先ほどの御答弁で明らかになりましたが、アタカとの間では二PFMだから倍です。御承知のように燐は流れ出しますと、瀬戸内海の公害の発生、赤潮あれは大体窒素と燐これに起因をしていると学問的には言われております。

ですから、一方でカチオンポリマー猛毒を持つています。あとで答えさせていただきますけれども、ほんのちよつとでメダカが死んでしまうという致死量があるんです。これはのちほど御答弁をいただきますけれども、このカチオンポリマーの有毒性の液体となつて放流されて海に流れていきます。その上に館山市清掃審議会が求めたCOD、それから燐これらが水に含まれて放流されていく。将来にわたつて非常に不安でございます。ですから、この予算書に計上されております建設工事等請負費に関連いたしまして御質問を申し上げるわけでございますけれども、非常に不安材料があるということ。

それからもう一点、浄化槽汚泥投入比率が五〇％可能という、先ほど触れましたけれども、これは大体いまはこの比率を七〇から八〇、大体八〇％くらいで設計をしていく傾向に現在ございます。それが館山市が五〇％ではいまここで契約するとしてはあまり保証の要求である。このように私は考えます。これに対しま

す御所見を承つて質問を終わります。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井議員の御質問に御答弁をいたします。細かい問題につきましては担当部長より御答弁をいたしますが、カチオンの問題及び浄化槽の汚泥投入比率の問題、水質基準の問題についてのみお答えをいたします。

先ほど御答弁いたしましたように、カチオンポリマー必ずしも猛毒のものではございません。毒性のあるものもあるということでございます。しかも、E2を採用いたしました場合に、カチオンポリマーを使わなければいけないということはございません。アニオンを使つても、ノニオンを使つてもいいわけでございます。そういう毒性のおそれがあるという御指摘もございましたので、アニオンとノニオンポリマーを使いましょう。そうしても、カチオンポリマーの方がより脱水効果等があるというものがあつて、しかもなおかつ毒性のないものということが証明されたものに対してはこれを使うことにやぶさかではないと、そういう御答弁を申し上げたわけでございます。

したがつて、カチオンは毒性がないということが保証されない限りは使わないつもりでございますので、残存量あるいは致死量等を調べる必要はないと考えております。またそういう意味で御答弁する必要はないと思います。

それから、浄化槽汚泥の投入比率の問題でございますが、これは先ほど御答弁いたしましたように、投入量五〇％を目標に設定をいたしてございます。したがしまして、もしそれが不安だとおっしゃるならば、正式の契約のもとにそれを何らかの形で明文化

いたしたい。そう御答弁申し上げたわけでございます。

それから、いまの新しい施設がすべて七〇%あるいは八〇%の投入量を目標に設計しているというお話でございますが、それについては伺っておりません。

それから、排水の水質基準の問題でございますが、昭和五十一年七月九日に館山市清掃審議会の会長の菊井敏博議員から私に対する答申がございました。そこで要望のございました基準というのは生物化学的酸素要求量すなわちBODですが、これが九PPM。浮遊物質SSが二十PPM。総窒素TNでございますが、これが二十PPM。磷Pが一PPM以下ということでございまして、COD二十というような御答申はございません。

したがって、今回のアタカ産業との仮契約でございますが、それについては、この水質基準にすべて適合しているものと確信をいたしております。

以上、答弁を終わります。

○民生部長（鈴木 力君） 衛生センターの継続費でございますけれども、当初におきましては全体計画の中で総額十四億七百二十万という見込みを立てたわけでございますが、いろいろ検討いたしましたしてそれぞれ今回補正をお願いいたしましたわけでございますが、最終的には十七億八百十五万一千円ということに相なっておりますが、すなわち補正額三億九十五万一千円の内訳でございますが、まず道路の建設工事費といたしまして見込みましたものが二億八千七百万でございます。その他敷地内の施設周辺に造園を予定いたします工事費が約一千万円、それに搬入車の道路用地といたしまして今回補正でお願いしてございます八千二百万円、それに

搬入路の用地買収の段階で補償いたします立木補償費が千四百七十八万六千円、それに道路設計費が三百八十一万五千円、それで三億九千七百七十万一千円でございますが、今回本体工事と取水施設工事におきまして九千六百七十五万円の減額で予定しております。その関係でトータル三億九十五万一千円と相なる次第でございます。

○総務部長（鈴木弘道君） 財源関係についてお答えいたします。

まず、予算書の第二表と四表との関係でございますけれども、起債の額が衛生センターの建設費の年割り額が減つたのに起債の額が増額しているという点でございます。まず今回、継続費を二年から三年に変更した理由は、いわゆる国庫補助事業の繰り延べという関係で当初は五十四年度が国庫補助事業が三〇%、五十五年度が七〇%ということで予算計上したわけでございます。ところが最近の財政状態から、国の方から国庫補助対象の割合を五十四年度を一五%、五十五年度を五〇%、五十六年度に三五%というような指示がきたわけでございます。

そういうようなことで、補助対象事業は五十四年度は減少になつておるわけではございますけれども、先ほど来から御説明申し上げておりますいわゆる搬入道路ですとか、立木補償ですとか、そういうような単独事業といえますか、そういう事業費がふえてきておるわけでございます。それが今回の五十四年度の予算に算入されておる関係で、事業費そのものは総体的に減つておりますけれども、単独事業に対しての起債部分が増加しておるといううな関係になつておるわけであります。

それと、第四表の起債の衛生センター建設事業五億三千九十万



円と、一四ページの市債の衛生費等の関係でございすけれども、一四ページをごらんいただければわかりだと思ひますけれども、いわゆる衛生債として二千八百二十万円を増額をいたします内訳は、衛生センター建設事業債として一千五百九十万円、清掃自動車購入事業債が千二百三十万円、その合計額で二千八百二十万円でございます。清掃自動車購入事業の補正につきましては第四表に掲げてあるとおりでございます。

それから、全体的な起債の関係でございすけれども、昨日の通告質問でも市長の方からお答え申し上げましたように、来年度起債の総額は現在の概算ですと本年度当初予算ぐらいだろうと見積つてあるわけでございすけれども、なお今後予算の査定を通じまして事業の重要性とか、優先性とかを検討いたしまして、必要なものについては利用していきたいというふうに考えております。

それと、予算の歳入の繰入金の関係でございすけれども、衛生センターの建設事業に伴う財政調整基金からの繰入額の関係でございすけれども、この衛生センターに関しては、当初予算で算定いたしました起債の充当率等のアップがございました関係で、全体事業費のうちの一般事業費の占める割合が、予算説明書の方にありますが、補正前の額では三千八百万円を財政調整基金を取りくずして衛生センターの建設に利用したいという考えでおつたわけでございすけれども、いま申し上げましたように地方債等の増額等がございまして、一般財源といたしまして四百二十一万五千円を当該年度負担すれば五十四年度分の衛生センターの建設事業がまかなえるというふうな見通しになつたものでござ

いますので、今年度取りくずしを予定しておりました財政調整基金を元に戻しまして、五十五年度に八千万、五十六年度に四千万、合計一億二千万円を財政調整基金から取りくずして衛生センターの建設にあたりたいということでございまして、従前二カ年度で一応財政調整基金として八千万を取りくずそうということで予定しておりましたけれども、事業費の増額等がございましたので、財政調整基金を一億二千万取りくずしてこれに財源として充てたいということで、今回は五十四年度分に限りましては取りくずさないで一般財源でまかなうというものでございす。

○一九番（石井輝久君） 再質問いたします。

財政の問題につきましては、ただいまの御答弁で了承いたしますが、ただ、公債費につきましては共通の問題として、センターだけの問題だけではなくて、とにかく予算に占める公債費の割合もきわめて高うございます。将来の問題として前向きに減らしていく方向で御努力をいただきたい。このように要望をしておきます。

それから、毒性のカチオンポリマーにつきましては、毒性を憂慮して当面いまの市長の御答弁ですと、使わないというふうな方針だそうでございす。ただ、カチオンの中にも毒性のないものもあるという御答弁でございす。これはどういう御調査かわかりませんが、私どもが調べたんではカチオンは毒性があるんだよというふうに聞いております。これは私も科学者ではございせんから、説明した人が、あるいは取り違えて私が聞いておればあれですが、通説ではカチオンポリマーは毒性があるということでございます。要するにカチオンで毒性がないという科学的な根拠

を持つまではカチオンポリマーは使わないという方針ですから、これはこれでよろしゅうございます。アニオンか、ノニオンを使つていきたい。こういうことでございますから、その点につきましては了承をいたしますが、ただ毒性についての調査これは私は質問で求めたわけです。カチオンを使うこういう御答弁、一二二十キログラム、百キログラムあたりこういうことでございますから、それなら調査をしたでしょう。こういう質問をしております。調査をしたなら致死量はどのぐらいか、調査の結果をお知らせ願いたい。こういう質問をしたんです。

ただいまの市長の答弁ですと、その調査の必要はない。使わないだから調査の必要はない。こういう御答弁でございましたがそれは私は違うと思います。しかも答弁する必要がないという市長の答弁、これは私は市長の答弁としては不穩当ではなからうかと、このように考えます。

とにかく私どもは絶対大丈夫だという保証を調査結果で与えていただきたい。調査をしなかつたらしなかつたという答弁で終つちやいます。終つちやいます。答弁する必要がないと思うという御発言でございましたが、ちよつとどうかと思います。この点に關します市長の御所見を承ります。

カチオンの点は当面使わないということでございますから、この点に關します質問は打ち切ります。

それから、浄化槽汚泥投入比率につきましても、市長から非常に前向きな御答弁でございましたので、これは必要なら明文化して契約を結びたいということでございますので、この点に關しましては先ほども御答弁では五〇%可能、最近では七〇%、八〇%

の率で設計しているものがあるということは聞いておられないということでございますけれども、お調べいただければわかりますけれども、大体かなり率がアップしてきている。これは事実でございます。ですから前向きに御検討をいただきたいと存じます。これは要望でございます。

それから、これは私の調査というより、私が五十一年七月九日当時の答申そのものを私手持ちとして持つておりませんが、あるいは私が記載を間違えたのかもしれませんが、私の手元にあるものはCODで二十PPMとなつてゐるんです。これはあとで、私が書き間違ひかもしれませんから、この問題につきましてはあとで調査して、当該場の質疑を打ち切つてあとで調査いたします。

ただ、BOD、SS、大腸菌につきましては、この数値は清掃審の答申の数値と契約しようとする数値は合致している。これは先ほど申し上げたとおり。CODとトータル窒素ことに隣につきましては、CODが三十PPMという契約の内容、それから隣で二PPMこの数値はもつと低くおさえられないのかということが一点ありますが、これは御質問改めて何らかの形で検討を私自身もしてみたいと考えております。そんなことでこの点に關する質問はこれもちまして打ち切ります。

○市長（半澤良一君） カチオンポリマーにつきましては、石井議員は猛毒がある、猛毒があるという御主張でございましたけれども、私どもはいままで毒性のものもあるという理解はしておりますけれども、必ずしもすべてが毒性があるというふうには理解をしております。

現に、このE2方式のところだけでなくて、たとえば千葉県の

場合にも東金とか、あるいは白河ですか、そういうところでもやはりカチオンを使っているわけでございます。それが現実の問題になつていないわけでございます。やはりそういう意味で私どもは猛毒はないというふうに理解をしております。

どんな毒性があるか、残存量がどのくらいか、致死量はどのくらいかということは調査してございませんから、そのために御答弁申し上げるためにはもう一度調べて再答弁することになりますけれども、しかし使わないということをごて御声明申し上げますので、それを調べて御答弁し上げる必要はないというふうに理解をいたしたわけでございます。

○一九番(石井輝久君) だいたい先ほどの御答弁と受け取り方としてはニュアンスが違つてきた。要するに調査をしてなかつたということに理解をいたします。

私が猛毒があると言いましたのは、現にアタカが建設した水上の例でございますが、これはテストプラントとしてアタカが水上につくつたんです。これです尿一リットル当たり百七十五ミリグラムのカチオンを使用しております。これに対して残存量が十八ないし三十五ミリグラムという報告がございします。どうしても残存量としてこれだけある。こういうことの報告でございします。

そして、それをどうして致死量を計るか、人間の致死量ではございません。私の持つておる手持ちのデータでは、カチオンの残存量からくる一つの例としてメダカでございします。メダカは一リットル当たりカチオンポリマーの残存量が二ミリグラム混入されっておりますと、メダカは死んでしまう。こういう実験例があります。

ですから、私はリットル当たり二ミリグラム混入されているカチオンポリマーはメダカを即座に殺してしまふだけの毒性を持っている、猛毒だということを申し上げるわけです。ですからこれは参考のために申し上げておきます。将来の問題として十分御検討をたまわりたいと存じます。これは要望をして質問を打ち切ります。

○議長(石井 正君) 暫時休憩いたします。

午後二時四十八分 休 憩

午後三時 六分 再 開

○議長(石井 正君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

一〇番議員 穴戸寿夫君。

(一〇番議員 穴戸寿夫君登壇)

○一〇番(穴戸寿夫君) 通告しました二点につきまして御質問いたします。

議案第六十三号一般会計補正予算第二号中商工費第一項商工費三目観光費十五節工事請負費六百八十六万九千円についてですが、説明書によりますと波左間の公衆便所ほか三カ所の新設とありますが、場所はそのへんになるのか詳細にわかりましたらお知らせいただきたいと思います。

また、本市の観光形態は夏季集中型であり、海岸線を中心とした観光ルートが主なものなので、こういった公衆便所の増設はまことに結構なことだと思います。そこで、現有施設の数また今後どのように増設していくか、お聞きします。

第二点として、現在行っている維持管理はどんな方法がとられているのかお聞きします。施設は増加しても、施設の特長性から

清潔でなければならぬと思います。いまの公衆便所は仮りにもきれいだというわけにはいかぬと思います。観光のイメージのために維持管理について今後どのような計画をお持ちか、お聞きしたいと思います。

次に、第六款農林水産業費三項水産業費二目水産業振興費十三節委託料百万円についてお聞きします。

説明書によりますと、東京水産大学教授による館山湾漁場調査に対する調査委託とあります。そして委託先は西岬漁業協同組合というふうになっておりますが、どのような調査研究をするのかその内容についてお聞きします。

また、この事業は初めての事業ではないかと思いますが、館山市だけでもつてやるものであるか、どこかほかの協力する県なり、国なり、また大学なりというところがあるのかどうか。また単年度、今年度だけのものであるのか、そのへんについてお聞きしたいと思います。

以上でございます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 矢戸議員の御質問にお答えをいたします。

公衆便所の新設の件でございますが、三カ所を予定しておりますが、内々考えたところもございましたけれども、いろいろ現実には問題点もございますので、設置場所については目下検討中というのが実情でございます。今回補正の分を含めると計十六カ所となりまして、ほぼ充足されるというふうに現在考えております。夏季の入り込み客急増期には必要に応じて仮設便所の設置を考えまして、固定した公衆便所と併用してまいりたいというふうに考

えているわけでございます。

それから、第二点の清掃管理についてでございますが、公衆便所の清掃につきましては従前から特に意を用いているところでございます。現在は市による直接管理、地元委託する方式等設置の状態に対応して維持管理に努めておりますけれども、観光地にふさわしい清潔な便所を目指して今後とも一層整備を図つてまいりたいと存じます。

農林水産業費の中の十三節委託料についてでございますけれども、館山湾に位置しております館山湾水域の生産性を向上するため基礎資料を得ることを目的といたしまして、東京水産大学研究班による本海域での特性を明らかにした上で、栽培漁業技術をどのように実施すれば生産性を向上させることができるかということ、五十四年度から三カ年計画で国の予算六百万円で館山湾の漁場調査研究を実施いたすわけでございますが、市といたしましても館山湾におけるこれら栽培漁業等の資料もございませんので、これを促進して生産性の向上と水産振興を図るため、東京水産大学研究班と共同で実施をいたします西岬漁協に委託料として支払うものでございます。

なお、東京水産大学研究班の調査項目は、これは三年間にわたつて実施するものでございますけれども、まず第一点といたしまして湾内の海底地形、底質を調査する。第二点は潮流を中心として沿岸海洋学的な調査。第三点は動植物相を明らかにし、栽培漁業の対象となる適種を明らかにすること。第四点湾内における水産資源を評価する。第五点新型人工魚礁を設置し、魚貝類、藻類の増養的效果を調査する。第六点有用水産物の種苗アワビ、マダイ、

ヒラメ等でございますけれども、種苗を放流し、その効果を調査する。こういうことになっておりまして、当面昭和五十四年度の実施計画は海底地形、底質、潮流調査及び魚礁設置点の選定及び設置、さらに動植物相の調査こういうことになっているわけでございます。

以上、答弁を終わります。

○一〇番（矢野寿夫君） 御説明によりまして大方了承いたしました。が、公衆便所の維持管理についてですけれども、市長さんの御答弁ですと、十分注意してやっておるということですが、夏季は比較的用户も多いわけにはきれいですが、それ以外はかなり汚くなっております。観光客など公衆便所のところまで行きまして中に入つて出てきて外でもつてやるというような状態も見受けるわけでございます。そういうわけでこれは定期的にかなりきれいにし、やはり館山の観光のイメージアップを図っていくのがよろしいんじゃないかと思うんです。それと公衆便所の外壁の色とかそういうものもある程度清潔のものに塗りかえて入りやすいようにするというのも、細かいことですが、十分その点を心くばつてやっていただきたいと思うわけでございます。これはこれで一応打ち切ります。

それから、この委託料ですが、水産大学も幾らか費用を出すということなんでしょうか、それとも国の六百万円と市から出す百万円、七百万円で三千年やつていくということなんでしょうか。この目的とするところは、館山湾内のこういう調査というのは大変結構なことだと思いますが、説明書によると百万円でこういうの

ができるのかなというふうに私ちよつと考えたものですから御質問したわけですが、そのへんもう一度聞かせていただきたいと思ひます。

○市長（半澤良一君） 御案内のように市内の坂田に水産大学の実験実習所ができたわけでございます。日本の漁業の方向として栽培漁業ということが大きく取り上げられなければならないわけでございますが、館山湾内の科学的調査というものが全然できておりません。魚礁を設置いたします場合にも漁師の方々の経験と勘によつて場所を選んでやつてきたわけでございます。やはりこの際科学的な調査をいたしまして、そうして科学的な栽培方法を考えていかなければいけないというふうに考えたわけでございます。またまた、水産大学で国の予算六百万でこういう調査をしたいという計画がございまして、なかなかそれだけでも十分調査ができないので、市の方でも援助をしてもらえないかという申し出がございまして、大変結構なことでございますし、国の予算に便乗をして館山湾を徹底的に解明して、そうして将来の栽培漁業のために役立つような資料をつくつてもらえばこれに越したことはないと考えますので、今年度含めまして三年間百万ずつ援助をしていきたい。そしてその調査結果に対応いたします、それに基づいて栽培漁業を進めていきたい。そういうふうに考えているわけでございます。

○一〇番（矢野寿夫君） お話で了解しました。

こういうことは大変結構なことなんです、説明書もこういう継続でやつていくことがはつきりしているんでしたら、説明書の中に新しい事業としてちよつと書き添えておいていただけ

れば私も質問しなくて済むと思うんですが、ほかに説明書の内容でかなり手抜きといつてはおかしいんですけれども、意味のわからないようなところもありますので、予算説明の書き方についても少し検討していただきたいというふうに思います。

公衆便所につきましても、この委託料につきましてもいづれも市長の答弁で了承いたしましたので質問を打ち切ります。

○議長（石井 正君） 以上で、通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で何か御質疑ございませんか。

○二四番（和田一郎君） 一点だけお尋ねいたします。

二〇ページの衛生費中二十二節立木の補償費のことですが、先ほど来同僚議員から質問があつたのでありますが、なんか答弁が漠然として私にはわからないのでありますが、この一千四百七十八万六千円という数字はどうやって出てきたか。たとえば、ヒノキが何立方メートルあつて幾らとか、杉が何立方メートルあつて幾らとか、そういう基礎になる数字ですか、それを教えていただきたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） 今回の立木補償費につきましては立木は全部杉でございます。そのほか雑木もあるわけでございますが、今回の場合におきましては杉を対象としておりまして、本数にいたしました約二千四百本余りございまして、これは調査いたしましたわけでございますが、基準額につきましては先ほどお答え申し上げましたとおり、県の基準等を参考にいたしました価格を設定したわけでございます。大体一本当たりにつきまして六千六百一十一円という平均単価、これは胸高いわゆる地上一メートル二十センチの高さの太さ、それから樹齡、木の高さそういったものを勘案い

たしまして、このような価格を設定したわけでございます。

○二四番（和田一郎君） ただいまの答弁によりますと一本六千何百円という補償費を払つたということですが、実際にこの土地で杉が一石当たりどのぐらいしておるかおわかりですか、私は一本六千幾らという杉はこの土地の杉の価額実際に調べてみた場合には非常に高過ぎる価額だと思います。おそらくいま一石当たり山では三千円か、四千円ではないかと思います。そのへんしつかり調べられたか、御答弁をお願いします。

○民生部長（鈴木 力君） 立木、杉につきましては、安房支庁の産業課、それから私も直接その長い間衝にありました職員の方にもお尋ねしたわけでございますけれども、やはり市場価格といわゆる立木の補償ということになるとだいぶ違うんだということでございます。大体石当たり市場価格では四万程度ということを知っておりますけれども、今回見積りましたものはあくまでも一本幾らこういう形で査定したわけでございますが、これはもちろんこれから所有者とさらによく話し合いをしまして決定するわけでございますが、いま予算の段階におきまして大体の見積り価格を見込みまして予算でお願いしたような次第でございます。これから最終的に所有者との間のさらに最終的に、こういうことを予定しております。

○二四番（和田一郎君） ただいま御説明ですと、石四万円ということですが、おそらく製品になつたものでも材木屋に聞いたところには私ははしてはいないと思います。土地の杉なんか往にして一本三千円かそこらで買えると思います。よくそこらへんを調べておいて あした委員会がありますので、しつかりとした答弁をお

願います。

○議長（石井 正君） 以上で、質疑を終結いたします。

### 委員会付託

○議長（石井 正君） ただいま議題となつております議案第六十三号ないし議案第六十五号昭和五十四年度館山市一般会計及び特別会計補正予算はお手もとに配付してあります議案付託表のとおりそれぞれ所管の常任委員会に付託いたします。

### 請願書の上程

○議長（石井 正君） 日程第三、請願第四号請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

### 請願書の趣旨説明

○議長（石井 正君） 朗読は終わりました。

次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

一二番議員栗原一雄君御登壇願います。

（一二番議員栗原一雄君登壇）

○一二番（栗原一雄君） ただいま議題となりました請願第四号館山市内湊川河川敷整備並びに付帯道路の建設についてに関する請願の紹介議員を代表して議案の説明を行います。

本請願書につきましては、館山市老人クラブ連合会会長保田正平氏はか百三十二名の署名を添付して請願いたすものでございま

す。趣旨についてはさきの朗読のとおりでございます。

さて、館山市の中心を流れる湊川河川敷の整備は美観的にも、衛生的見地からも促進を図るべきであろうと存じます。特に近年地震予知連の発表によれば、関東周辺地域に大型地震発生の危険性を認めており、そのような状況の中で老人福祉センターを中心とした公共施設を初めその地域は袋小路の立地条件にあたり、護岸と付帯道路の建設、整備により、その地域を利用する不特定多数の市民及び地域住民の生命、財産、身体を災害から保護する防災に対する大きな役目を果たすものであり、防災体制の確立とあわせて災害発生時における被害の拡大防止及び二次災害の防止に大きく貢献できるものと確信いたします。

なお、今日の本市の基礎を築いた功労者である老人を大切にする敬老精神から福祉センターが設置されたものであり、現状においてはいきわめて交通不便な状態でございます。したがって、付帯道路の建設により国道一二七号線上にあるバス停から徒歩で個人的にも自由にバス路線の利用により常時入浴ができ保健、娯楽設備の整った老人のいこいの場所としてさらに利用度を高めることができ、施設の有効かつ適切なる利用促進につながるものでございます。気候、風土に恵まれました温暖の地としてはかり知れない真の公共福祉の確立に資するものであると確信いたします。

以上申し述べました事情を十分御賢察いただき、議員各位の御賛同をたまわり請願書を御採択いただき、関係官庁に対し早急なる措置を講ずるようお願い申し上げます。

以上をもちまして、説明を終わります。

○議長（石井 正君） 以上で、説明は終わります。

## 委員会付託

○議長（石井 正君） 本請願書につきましては建設経済委員会に付託いたします。

## 延 会 午後三時三十分延会

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よつて、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明十二日より十四日まで委員会審査のため休会、次会は十五日午前十時開会といたします。その議事は議案第五十一号ないし議案第六十五号に係わる各委員会における審査の経過並びに結果の報告、討論、採決及び追加議案等の審議といたします。

この際、申し上げます。各議案についての討論通告の締め切りは十二月十五日午前九時まででありますので申し添えます。

○本日の会議に付した事件

一、議案第五十一号ないし議案第六十五号

一、請願第四号